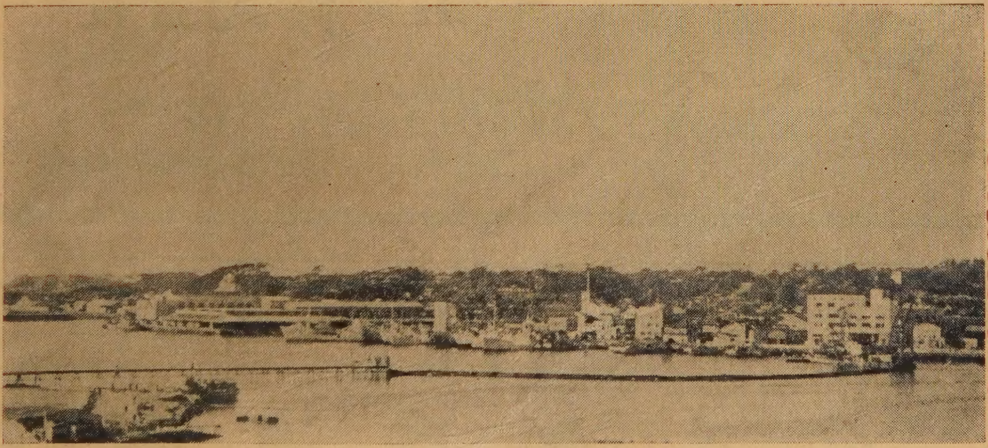
Covers December 1954 operations

鮪 漁 業

TUNA FISHING

No. 20 (May. 1955)

MAY 1958
LIBRARY
POFI
FISH & WILDLIFE
SERVICE



——三崎漁港（港内浚渫中城ケ島より撮す）——

The Investigative Society of Tuna Fishery, Misaki

鮪 漁 業 研 究 會

倉敷ビニロン

クレモナ 万漁

鮪延縄　ロープ　漁網

クレモナ延縄により操業中の江の島丸

くさらない

使いやすい

値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町2の4

新時代の冷凍機

（高速多気筒）

ダイヤ冷凍機

（新三菱重工製）

漁船船舶冷凍装置・製氷冷蔵凍結施設

設計・製作・施工

株式会社 東洋製作所

本社・工場　東京都品川區東品川五ノ六一
電話大崎（49）代表2173～7番（49）6004番営業部直通
営業所　大阪市北區梅田町四七　（新阪神ビル）
電話福島（45）4914（直通）6231―5（内線372）

―― 目　次 ――

鮪漁船紹介　第三福久丸　進　洋　丸

鮪漁場図　（昭和29年12月操業）

三崎、他四港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和29年12月）… 1

1　調査の概要……… 1

2　漁況の概要……… 1

3　各漁場の漁況……… 2

鮪類水揚価格表（三崎）昭和30年4月……… 25

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表（昭和29年12月）別表1……… 26

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和29年12月）別表2……… 30

鮪類標識放流について……… 37

アメリカ領サモア島の概観――鮪を中心問題として……… 38

米国魚類鳥獣課海洋漁業支所 航海報告……… 39

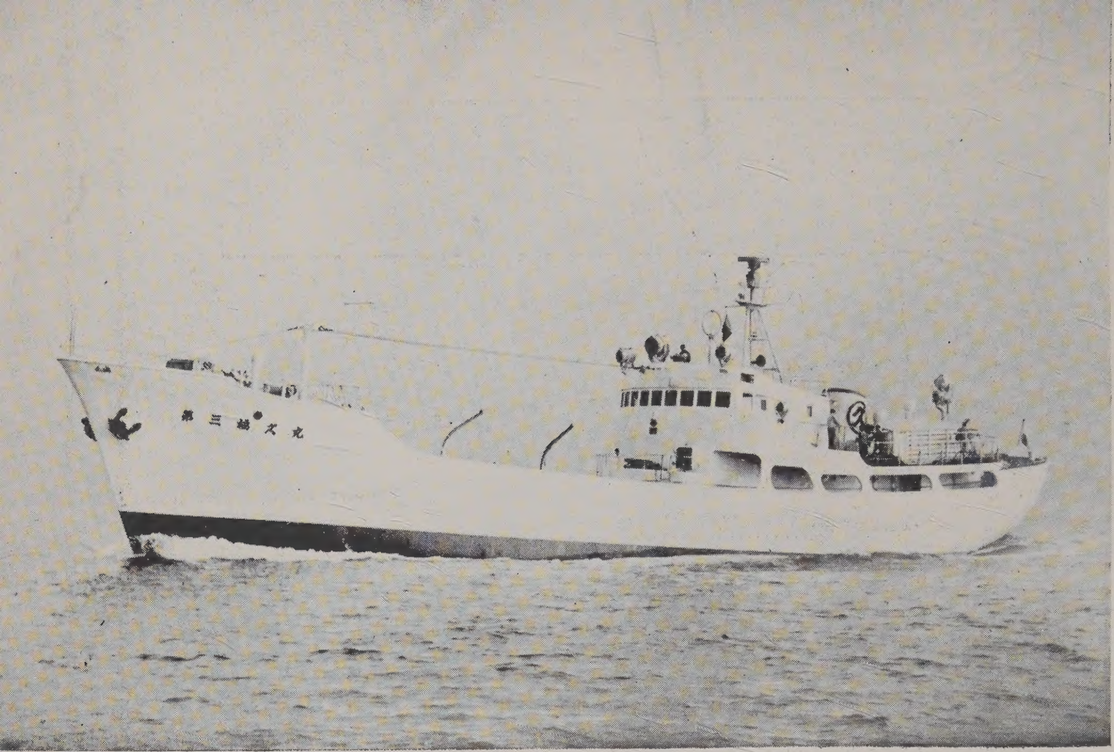
強くて・安くて・腐らない

鮪延縄に絶対経験と信用のあるメーカー

クレモナ 万漁　國産製麻株式會社

本社　東京都中央区京橋三丁目四番地　電話 東京（28）6605・6606番

工場　栃木県鹿沼市朝日町電話（鹿沼）242番　同上野町 電話（鹿沼）377番



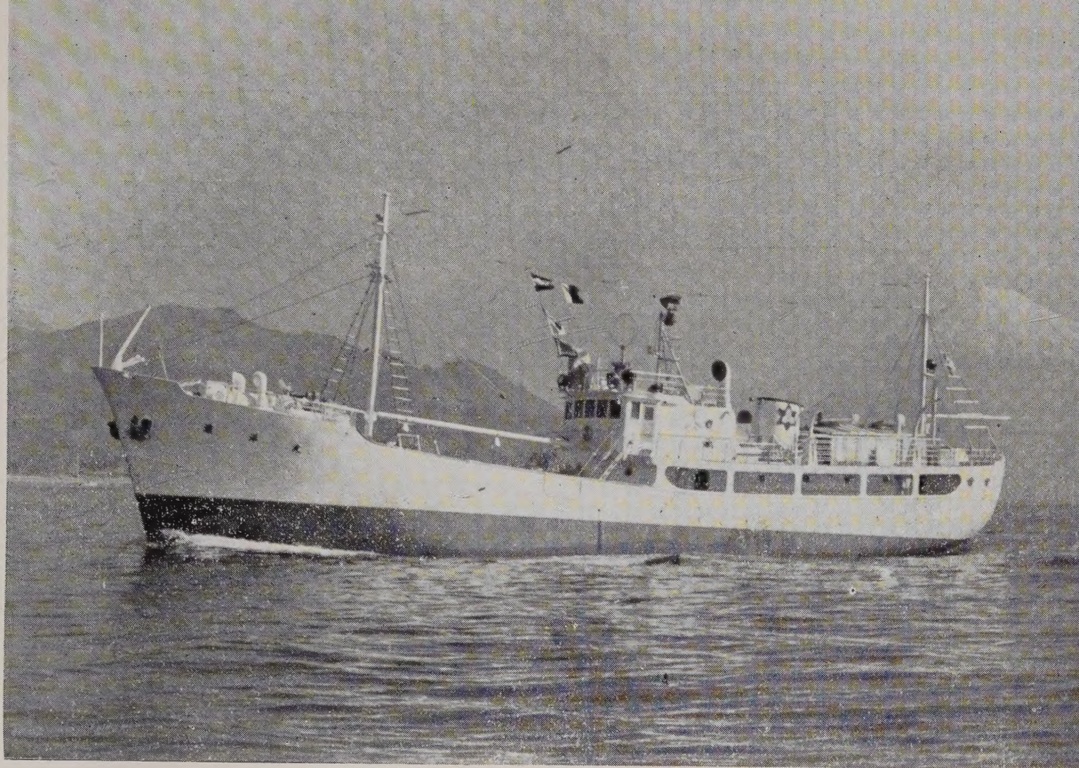
第三福久丸

船　主　山　中　久　作（焼津市）
造船所　株式会社　大阪造船所

主要寸法	長42.30m×幅7.50m×深3.80m
総屯数	377.83屯
魚艙容積	418m³
燃料油艙	156m³
速力	（最大）11.59節
主機	デーゼル650HP 1基
補機	デーゼル100HP 2基
無線	250W 75W 各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 アンモニヤ直膨式高速多気筒40HP 2基
レーダー、ローラン、魚探兼音響測深機	各1式
竣工	昭和30年3月6日

株式会社　**大阪造船所**

本　　社　大阪市港区南福崎町2丁目1番地
電話築港(57) 0361～4, 1921～6
東京事務所　東京都中央区日本橋本町1丁目12番地
電話京橋(24) 4131～5, 2007



進　洋　丸

船　主　宮崎県教育委員会
造船所　株式会社　三保造船所

主要寸法	長33.70m×幅6.60m×深3.30m
総屯数	223.68屯
魚艙容積	$122m^3$
燃料油艙	$108m^3$
速力	（最大）10.72節
主機	デーゼル450HP 1基
補機	60HP, 32HP 各1基
推進機	MY式可変ピッチプロペラ装置
無線	150W　50W　各1基
冷凍装置	日新興業設計施工 フレオン12直膨式高速多気筒1基
レーダー、方向探知機、魚群探知機、電動測深機	各1式
竣工	昭和30年3月31日

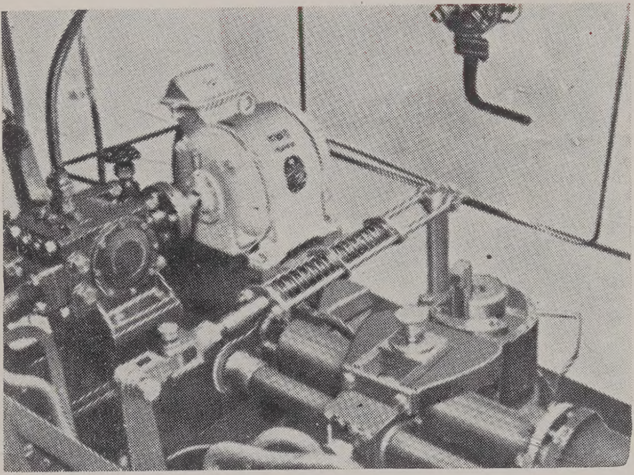
漁船の冷凍装置に定評ある

日新興業株式会社

本　社　大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）TEL．北浜㉓1334．2351
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）TEL．銀座㊼4385．6810
清水出張所　清水市三保本村四区　TEL．清水2203
三崎連絡所　神奈川県三浦市西浜46海洋電機工作所　TEL．三崎443

施工船名
進洋丸
第3福久丸
海援丸
蒼鷹丸
第2日東丸
第10光洋丸
（其の他約弐百隻）

三菱小型ジャネー式
電動油圧舵取装置



目下神奈川水試講堂に於て本写真のもの展示中につき御高覧の上御用命を御願い申上げます。

三菱造船株式會社

本社　東京都港区芝琴平町一番地
電話芝（43）5111・6111（代表）
営業所　神戸・大阪・福岡
工場　長崎造船所・下関造船所
広島造船所・広島精機製作所

輸出ヴイタミン油　・罐詰・冷凍魚・遠洋漁業・各種魚類肝臓買付

湘南水産工業株式会社

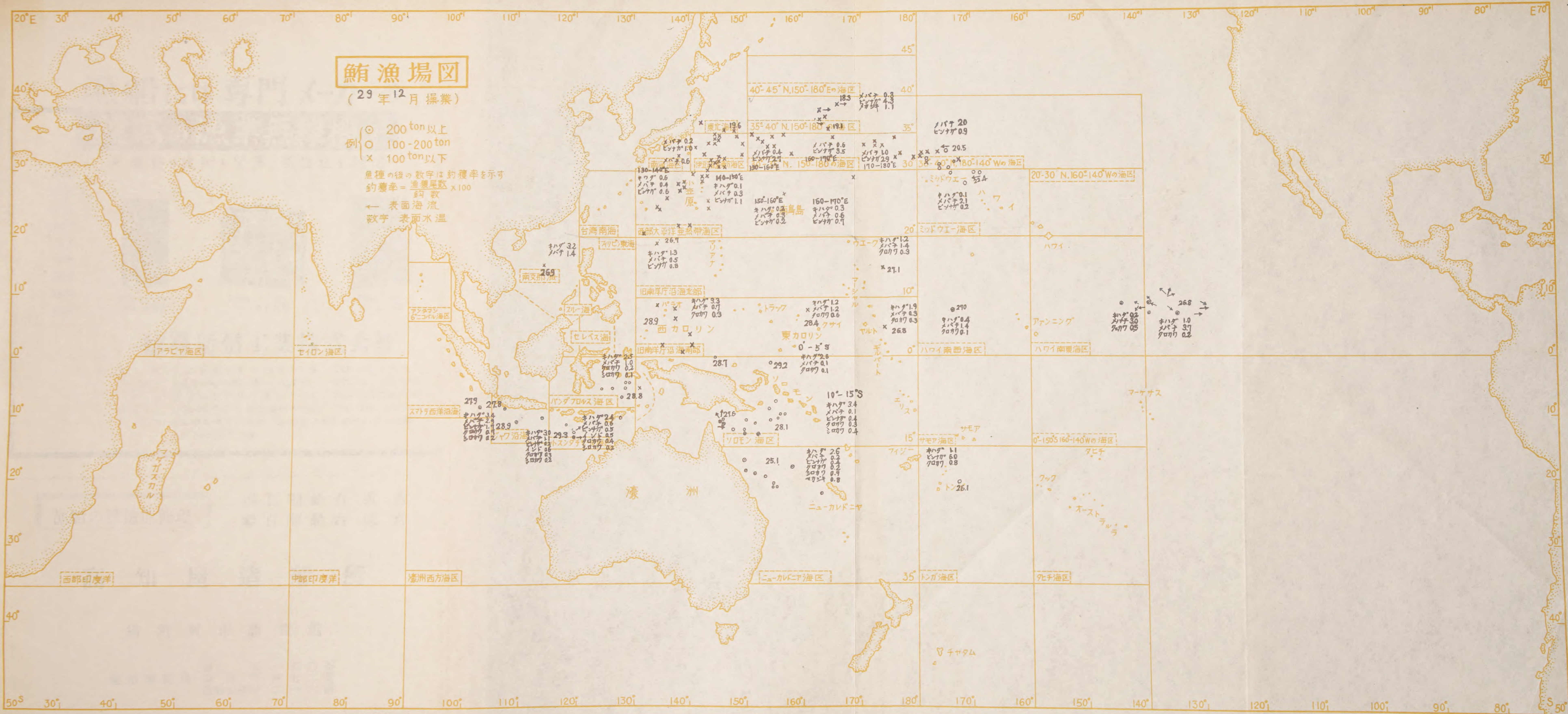
神奈川県三浦市三崎町二町谷 3506 の 4
電話三浦　370番・362番

諸官廳船・遠洋漁船・御用

創業五十年
最良の品質
最善のサービス
を誇る　株式会社　安保商店

◁三崎御入港の節は何卒
御引立の程御願い致します◁

電話三浦116番



鮪漁場図
(29年12月操業)
例
⊙ 200ton以上
○ 100-200ton
× 100ton以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率＝漁獲尾数/鈎数 x100
← 表面海流
数字 表面水温
アラビア海区
セイロン海区
スマトラ西洋海区
ジャワ沿海
バンダフロレス海区
セレベス海
スルー海
台湾南海
南支那海
旧南洋庁沿海北部
旧南洋庁沿海南部
西部太平洋亜熱帯海区
ソロモン海区
ニューカレドニア海区
ミッドウエー海区
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
サモア海区
トンガ海区
タヒチ海区
20°-30°N.160°-140°Wの海区
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
西カロリン
東カロリン
濠洲
マダガスカル
ニューカレドニヤ
ミッドウエー
ハワイ
アンニング
マーケサス
サモア
フィジー
タヒチ
クック
オーストラル
トンガ
チャタム

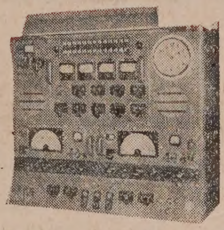
漁船には専門メーカーの

穂高の漁業無線機を

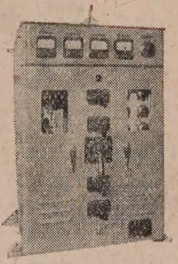
★最新の技術と堅牢、高性能を誇る

500W
250W
150W
125W
75W
50W
35W
25W
10W

FTA—250型
250w 送信機



RHC — 12型
ラック型管制盤



FTD—75型
75w 送信機

穂高通信工業株式会社

本　　社	東京都新宿區下落合1—6	TEL (95) 2595・6219
大阪営業所	大阪市西区京町堀上通2—21協榮ビル	TEL (44) 5792・4109
東京工場	東京都新宿區下落合1—6	TEL (95) 2595・6219
長野工場	長野縣南安曇郡穂高町2579	TEL (穂高) 61
代理店	小樽・函館・八戸・氣仙沼・石巻・塩釜・小名濱・那珂湊・銚子・三崎・清水・焼津・室戸・下關	

漁船の建造並修理

四百噸船台貳台
參百噸船台貳台

高知屋造船所

横須賀市浦賀港

電話浦賀局
自宅 一五〇番
事務所 四七二番
造船場専用 二一六番

三菱横浜可変ピツチプロペラ装置

三菱日本重工業株式會社

本　　社　東京都中央区日本橋本町三丁目九番地
電話・日本橋(24) 1407—9, 4738—9
大阪営業所　大阪市北区絹笠町五〇番地(堂ビル8階)
電話・大阪堀川(35)　5231—2
横浜造船所　横浜市西区緑町三丁目四番地ノ二
電話 横浜本局(2) 2931—9, 7231—6

各種音響測深機・各種魚群探知機
船内高声電話器・超短波無線電話器
方向探知機・風向風速計

海上電機株式會社

本　　社　東京都千代田区神田錦町1の19
営 業 所　小樽・塩釜・東京・新潟・清水・神戸
境・宇和島・下関・長崎・鹿児島

三崎他四港の水揚調査を主体とする遠洋鮪漁業の考察（昭和29年12月）

三　崎　　神奈川県水産試験場
野村、斎藤、下里、中込、
東京、焼津、清水　　南海区水産研究所

1　調査の概要

12月操業分として調査せる鮪延縄船数は三崎22，東京56，焼津40，清水9，合計137隻、此の内、体長測定の供試船数は70，調査海区数は21である。

2　漁況の概要

調査せる船数は11月より僅かに少いが、調査海区数は4海区多く、多くの海区に散つている。又、此れは船団操業がなかつた事とも関連する。船団操業がなかつた事によつてニユーカレドニヤ海区は4隻から9隻と激減した。又、中部印度洋、ジヤワ沿海も減少し、小スンダ、チモール沿海、バンダ、フロレス海区が増加している。一方、北部太平洋方面は全面的に著しく増加している。

漁況をみると総計釣獲率はインドマグロ、クロカワ以外はどの魚種も11月より低率である。

キハダの釣獲率は旧南洋広沿海南部は高率で、特に170°E 以東は急増しているのに対し、旧南洋庁沿海北部は同率、西部太平洋亜熱帯海区は低下を続けている。此の現象はキハダの意味しているものかもしれない。南半球は0−5°Sで著しく低下しているが、5°S 以南はどの海域も上昇を続けている。印度洋南半球では緩に増加している。メバチの釣獲率は北西太平洋の 30−40°N，150—180°E の海域が低下しているのに対し30−40°N，180−140°Wの海域、及び10−30°N，130°E−140°W の北半球の中部太平洋は広く上昇して居る。しかし、旧南洋庁沿海南部では5°N 以北、以南共に低下している事が注目される。東部印度洋の 10°S 線では低下している。ビンナガが北部太平洋で西進或は西南進している事は既知のところであるが 30−40°N，180−140°Wの海域は既に低下し始め、30−40°N，150−180°E の海域は最高に達している。伊豆東方海区、西部太平洋亜熱帯海区は出現し始め、釣獲率は上昇し始めた。南海々区は未だ低率であるが、此れら3海区はビンナガの西南進により1月以降更に増加するものと推察される。20°N 以南の旧南洋庁沿海は、マリアナ西側水域を除き低率である。ソロモン、ニユーカレドニヤ海区は低下していたが12

月も顕著に低下している。一方、サモア海区は上昇して居り注目される。東部印度洋では低下して居り低率である。

クロカワは太平洋の赤道以北はどの海域も低下し続け、赤道以南は緩に上昇して居り、既知の如く南下を続けている事が推察される。東部印度洋の12°S線では、ジャワ沿海は変らないが小スンダ、チモール沿海は上昇し始めている。

ソロモン・ニユーカレドニヤ海区のシロカワは共に高率であるが、ソロモン海区は低下し、ニユーカレドニヤ海区は更に上昇して居り、南下している様にも思われる。バンダ、フロレス海区及び東部印度洋は低下し始め、或は低下し続けている。

マカジキは北部太平洋方面では30°N以北は低下して居り、10°N—30°Nは130°Eより140°W以東にかけて稍上昇している。太平洋の赤道以南ではソロモン海区の5—10°Sのみ高率であるが、他のどの海域も同様に低下を続けている。東部印度洋も低下を続けて居り、太平洋と同傾向である。

メカジキは伊豆東方海区で低下し30—35°N, 150—181°Eの海域で変わつていない以外は130—180°Eの10°N以北は南支那海を含めてどの海域も上昇している。

3 各漁場の漁況

A 0—20 N, 140°W以東

調査隻数は3, 5—10°Nの140°W線で2隻、130°W線で1隻で操業海域は11月と同様である。水温は49.9—27.1°Cで11月の26.3—28.8°Cより低下している。

（キ　バ　ダ）

釣獲率は11月と大差ないが6°—8°N, 137°—130°W線で操業している1隻が釣獲率1.91となつて11月及び12月の他船に比較して著しく高いので全体的には高くなつている。140°W線では0.67, 0.58と11月と殆んど変わらないが、ハワイ南東海区5°N以北140°W線が0.22で極めて低い事と関連があるかもしそない。体長組成は11月と同様、中、大型魚が主であるが11月に比べると型が小さくなつて小型以下の率が増加している。

（メ　バ　チ）

メバチの釣獲率も、11月より更に高く、ハワイ南西海区5°N以北、ハワイ南東海区と、略同様の変化であるが他海区より著しく高率である。体長組成は、大型44%、中型50%でハワイ南西海区5°Nより更に型が大きく30—40°N, 180—140°Wの海域、ミツドウエー海区の小型の多い組成と全く異る。同海の11月の組成と比較すると、11月に他船と著しく異つて71—110cmの小型にモード（組成の山）のある1隻があるので組成を異にしている様であるが、此の1隻を除くと11、12

月の組成は共に131—160cmにモードが出来て全く同型である。

（クロカワ）

釣獲率は11月の0.41より0.24と全体的に低下したが、8月も0.30で大差ないので、此の3ケ月の調査結果では140°W以西諸海区の南下による低下と関連付けるのは困難である。12月はハワイ南東海区よりは低率である。体長組成は161—260cmまでの各階級が平均しているが、201cm以上の大型は約50%に達しており11月に比べて更に型が大きくなつている。

B ハワイ南東海区

調査隻数は1，150°W以東の5°N以北で操業して居るが9月以降調査されなかつたので傾向は明瞭ではない。

（キハダ）

ハワイ南東海区も南西海区の様に5°N以北と以南で漁況の著しく異る事は既知（水試月報No.20，鮪漁業No.11）の事であるが12月の率は著しく低い様に思われる、恐らく、操業位置から判断して、メバチの適温帯と思われメバチの率は非常に高率となつており、キハダの少い水域と思われる。

（メバチ）

12月の釣獲率は2.95で8月より著しく高く、春より更に高いが春は5°N以南で操業しているので比較は出来ない。又、附近他海区では10.11月が低下から上昇へのポイントとなつているが此の海は9—11月が調査されていないのでその変化は解らない。然しその操業位置から判断すると140°W以東のメバチ漁場が、7°N線を中心とした狭い小業に形成されており、その延長と思われる。

（クロカワ）

釣獲率は0.5で8月の1.0の$\frac{1}{2}$の率であるが他魚種と同様5°N以北は始操業以来二回目の調査なのでその傾向は全く不明でハワイ南西海区の様な南下洄游の検討は今後に待つ。ハワイ南西海区5°N以北の12月よりは著しく高く、10月と同率である事の関係も今後の結果によつて検討出来よう。

C 30—40°N，180—140°Wの海域

調査隻数は9,10,11月以降次第に多くなつている。操業海域は大体180—170°Wであり、11月とあまり変わらない。水温は17.2°—23,8°で11月に18.2°—26.0°Cに比べ稔低下している。

（メバチ）

釣獲率は9, 10, 11月と低下したが12月には推察の如く高くなつた。10, 11月の低下から上昇への変化はミッドウエー海区では9月が未調査で明瞭ではないがハワイ南西海区5°N以北にも見られ、又両海区共28年にも見られている。しかし28年1月は低下しているので29年1月以降が注目される。体長組成11月は91—100cm33.1%、111—120cm 24.8%であつたが12月は101—110cmが25.3%、121—130cmが17.5%でモードは二つで変わらないが稍大型よりが多くなつている。ミッドウエー海区に比較すると殆ど同型の組成である。

（ビンナガ）

28年と同様11月まで上昇していた釣獲率は12月に至つてやはり低下し、前号にも詳述した様に西進洄游していたビンナガは12月には既に180°E以西に去つて行つた事を物語つている。此れは30—40°N, 150—180°Eの海域でビンナガの釣獲率が上昇している点と併わせ伺える。体長組成は11月と変化なく10月よりは小型が多く大型が少い。ミッドウエー海区も12月は11月と変わつていないので、12月も前号に記した如くミッドウエー海区より約10cm位小型である。東経漁場と比較すると11月は同組成であつた。12月の30—40°N, 150—180°Eは61—80cmが72.3%で10月より更に小型が多く西経漁場と異る様であるが30—35°N, 150—180°Eの海域、伊豆東方海区とは散らばりが多少異るが似ている。

D ミッドウエー海区

調査隻数は6, 水温は11月より低く、最高水温も11月は全船25.5—25.8°Cであつたが、12月殆んど22.7°—24.9°Gが多い。

（キハダ）

周年低い釣獲率であるが稍高い釣獲率を持つた船が一、二見える事は11月と同様で詳細は前に述べた。月変化を見ると10月から11月に上昇したが12月には低下しているので或は28年の様に冬低率、春先にかけての上昇が見られるかもしれない。しかし、27年、11, 12月が未調査なので推定は出来ない。体長組成は測定数が少いので、明瞭でないが、型の大きいものが主体の様である。

（メバチ）

釣獲率は10, 11, 12月と次第に高くなつて来、12月の率は2.11で30—40°N, 180—140°Wの海域と略同率である。27年、28年及び30—40°N, 180—140°Wの海域の28年は12月まで漸増し1月以降は低下しているので30年1月は低下する可能性がある。前に一寸ふれたが30—40°N, 180—140°Wの海域も或は同傾向をたどるものと思われる。体長組成は前項にも述べた様に91—40cm, 121—130cm, 141—

—160cmの3ケ所モードがあり、大体ダルマ及び小型魚の多い組成でミツドウエー海区と殆ど同型である。175°W—130°W. 5°—10°Nの間のメバチの組成が中、大型を主体としているのに対し著しく型が小さい。

(ビンナガ)

11月と同程度の極めて低い釣獲率である。体長組成は11月と同形で91—100cmが48.8%、101—110cmが32.5%で10月よりは90—100cmが多くなつている。28年12月も91—110cmが多いが91—100cmは29.2%で101—110cmの方が47.4%で多い。

(カジキ類)

クロカワ、マカジキ共に低率を続けている。クロカワの体長組成は測定尾数の割合に散らばり(分散)が大きいので明瞭ではないが11月と殆んど同形で211—220cmと231—240cmの二つにモードがある。此の傾向は0—20°N. 140°W以東にも多少似ている様に思われる。マカジキは11月より全体的に10cm位大型になつて151—171cmが53%であるが30-40°N. 180—140°Wの海域は更に大型が増え191—210cmが68.3%を占めているので両海区の差は11月より大きい。

E ハワイ南西海区

調査隻数は1で極めて少い。操業海域は5—10°Nの海域で10月も同海域で操業した船が多い。水温は10月より低い。最低水温も10月は1隻は25.9°Cであつたが他の2隻は27.4, 27.5°Cで12月26.2°Cのの方が低い。

(キハダ)

5°N以北は水試月報27号、鮪漁業18号に於て報告した様に、その後は9.10月と低下しており、28年に比して極めて低率で28年と同様の漸減をたどるかは不明であると述べた。調査されなかつた11月をおいて12月は9月の0.42と同率の0.43で従来調査された稍趣を異にしている。

(メバチ)

27.28年と同様6月以降漸減を続けて来た釣獲率は前に推察した如く12月には上昇しているがその勾配(釣獲率上昇の割合)は小さく28年の様な激増ではなく27年の様な漸増をたどる様に思われる。1月以降の変化が注目される。又180—160°Wの海域ではキハダと逆に比から南に行くに従つて低率となる他、東方諸海区と比較すると180°Wまでは西よりに低率になつている。体長組成は111—130cmが23.8%、141—160cmが37.7%で二つのモードを持つている。10月に比して大型が多く平均体長も10月の136.7に比して141.9と大きくなつている。7月以降

次第に大型へとずれ、27年の10−11月に略似て居り、恐らく1月は27．28年の様に一たん小型へとずれるかもしれないが2，3，4月と次第に大型へとずれてゆくであろう。

（クロカワ）

クロカワの釣獲率は8月以降低下し、12月には0．14となり既知の通り極めて規則的な周期変化をし、8月以降ぞくぞく南下し、12月に至つて殆んど南下した様である。

赤道以北の各漁場では全面的に減少し、赤道以南では増加の傾向を示している。

F トンガ海区

調査隻数は1，始めて調査された海区である。此の海区が調査される事によりソロモン、ニユーカレドニア海区の詳細が明確化して来るのでサモア海区と共に重要な調査となるであろう。操業海域はトンガ諸島東側水域で資料はサモア基地の船団から得たものである。

（キハダ）

釣獲率は1．07でサモア海区11月の1．65、28年12月、29年の12月のニユーカレドニア海区同緯度海域よりも低率でニユーカレドニヤ海区緯経度分析によつて見られた南よりに低い、東よりに低い傾向を全く裏書きしている。今後の調査結果が注目される。

（メバチ）

メバチの釣獲率は南半球他海区と同様極めて低率である。

（ビンナガ）

ニユーカレドニヤ海区は凡そ毎年高い釣獲率であるが此の海区は12月で6．0の高率である。しかし、始めて操業した海域は最初著しく高い率である事が多いので未だ他海区と比較するのは無理であろう。

（マカジキ）

釣獲率は0．3で29年12月のニユーカレドニヤ海区15—20°S，150—160°Eの0．48と略同率であるが20—25°S，150−160°Eの1．26よりは遙に低い。29年10．11月のニユーカレドニヤ海区のマカジキの漁況をみると東よりに低くなつているので或はその傾向がトンガ海区まで連続しているのかもしれない。

G 旧南洋庁沿海北部

調査隻数は3，2隻が130−140°E、1隻は170—181°Eで西端と東端で漁況は著しく

異る。130—140°E の水温は11月より低い。

（キ　ハ　ダ）

26年2,3月、及び 9,10,11月とも170°E 以西は高く以東は低い釣獲率であつたが12月は殆んど同率で以西1.30以東 1.15 である。以東は 10, 11 月は調査されていないのでその間は解らないが 9 月の0.15より著しく上昇している。27年秋期も上昇しているが月がずれて居り、28年には見られていないのでその傾向は未だ解らない。以西は10月から11月にかけて 2.4 から 1.2 著しく低下したが12月は 1.3 と僅かに上昇している。以西はあまり調査されていないのではつきりしない。体長組成は以西のみで 71－80cm が 11.2%、121—140cm が71.6% でモードが二つある。此の組成は旧南洋庁沿海南部170°E 以西に多少似ているがそれより稍型が大きく、むしろ西部太平洋亜熱帯海区の組成に近似している。

（メ　バ　チ）

170°E 以東は神水試月報26号、鮪漁業17号で多少ふれた様な秋高く冬低い周期的変化に従い、12月は 9 月の1.00から1.35と僅かに上昇している。恐らく 1 月以降春に向けて上昇を続けると思われる。以西は今までの調査では以東より遙かに低率であつたが10月は逆に以東より高率となつた。しかし、11月に到つて著しく低下し以東より遙かに低率となり12月も11月の0.15から0.65と僅かに上昇したに過ぎず以東より遙かに低い。体長組成は 1 隻のみで91—100cm, 15.7%、121—130 cm, 29.1% でモードが小型に二つあり西部太平洋亜熱帯海区と似ているが大型よりのモードが 10cm（1組成区間）小型よりにある。旧南洋庁沿海南部 170°E 以西よりは遙に小型である。此の小型の多い傾向は27, 28年にも見られたが29年10 月は中型がまして旧南洋庁沿海南部 170°E 以西より大型で全く逆の傾向である。

（ビ ン ナ ガ）

170°E 以東は従来通り殆んど釣れていないが以西は11月に10月の 0.0 より1.75にまで上昇し、12月は低下した。しかし0.79で此の海区の今までの調査としてはなお高率である。恐らくマリアナ諸島周辺には冬季を中心として局部的な小群が散在する様に思われる。体長組成も91—110cmの比較的大型群で恐らく西部太平洋亜熱帯海区の西よりで南下ビンナガ群の大型のものが、亜熱帯収斂線以南に南下するものと推察される。

H　旧南津庁沿海南部

調査隻数は 9, 内130 -140°E が6, 140—150°E が1, 160—170°E が1, 170—180°E が

1である。神水試月報27号、鮪漁業18号から行つている様に5°N，10°経度毎分析による方法で説明する。11月調査された130—150°Eは12月の方が水温は稍低い。

(キ　ハ　ダ)

130－140°Eの海域は月報27号、鮪漁業18号に詳述したが11月は推定の如く5°N以北は低下し、以南は上昇した。5°N以南は10月2.85，11月3.25，12月3.70と上昇したが以北は11月低下して1.35となつた後12月は1.90と再び上昇した。以北は28年12月から低下して居り前号の記述と逆に1ヵ月おくれている。恐らく1月には12月より低下するのではないかと思われる。140－150°Eの5°N以南は11月6.45と著しく上昇した後12月は低下したが4.40で猶高率である。29年11，12月の激増が周期的のものかどうかは明瞭でない。160－170°E 5°N以北は28年と同様8月以降1.0附近を続けて居る様で周期的変化をたどつているのではないかと思われるが29年に入つてから殆んど調査されていないので判定する事が出来ない。170－180°E，5°N以南は1.85で28年同様夏から冬にかけて低下している様であるが、その低下の状態は全く異る様に思われる。

体長組成は既知の如く12月も130—140°Eは121－140cmの中型が30.5%、140—150°Eが中型72.9%、141cm以上の大型が0.5%、160－170°Eが70.1%、3.9%、170—180°E，5°Nが87.2%、5.0%と次第に東よりに型が大きくなつている。170°E以西は71—80cmに小さなモードが現われているが大部分を占める組成は11月と殆んど変わりない。此の海区は周年体長組成は変わらない。29年9月の大型の激増は既述の事であるが例外的現象の様に思われる。170°E以東は月報26号、鮪漁業17号に既述した様に28年と同様8月にかけて組成は大型へとずれ後小型へとずれているが12月は此の現象と関連する様に121—130cmが62.7%で更に小型へとずれている。

(メ　バ　チ)

130—140°E，5°N以北の釣獲率は比較的規則的周期変化である事は既知のところであるが12月はその変化に従つて1.60と11月の1.76より僅かに低くなつている。恐らく春にかけて低下するものと思われる。5 N以南はあまり規則的でなく傾向はつきりしないが10，11月と上昇した釣獲率は12月には低下している。28年5月から9月にかけて調査されていないので28年の変化との関連は見られない。140—150°Eの5°N以南も同様その変化の傾向は明瞭でない。28年10月は最も高く29年1月、2月は最も低く、29年は11月0.67，12月0.13と著しく低下しているが10月が調査されていないので、28年と同じ変化をしているのかどうかはわから

ない。160—170°E の 5°N 以北は 8 月の0.62より著しく高く1.40で28年と略同率である。170 −180°E の 5°N 以南は調査点が少いのではつきりしないが28年に比較すると、28年 6 月 0.75、29年 5 月 0.2, 8 月は 28年 1.25, 29年 0.62, 12月は28年 1.20, 29年 0.32 と全体的に低率である。

体長組成は170°E 以西は11月より12月の方が大型は稍多いが中型は少い。しかし小型が稍大型よりにかたよつている事とから全体的には稍大型よりにずれている。平均体長も11月 131.1, 12月 133.9cm と多型よりに移つている。秋から12月にかけて組成が大型よりにずれる事は27. 28年にも見られている。そこで11月以降の 28. 29年を比較すると共に12月まで大型へとずれた後 2 月にかけて小型へとずれ 3 月は再び大型よりにずれている。平均体長をまとめると第 1 表の如くになる。

Table 1 南洋南部170°E, 以西の平均体長

月 \ 年度	27	28	29
11	—	134.7	131.1
12	133.3	138.0	133.9
1	124.4	128.7	—
2	123.4	126.0	—
3	128.5	132.1	—

従つて 30年 1 月以降も恐らく 2 月にかけて小型よりにずれ 3月から大型よりにずれる事と思われる。

170°E 以東は 101—110cm, 141—150cm に二つモードある。しかし、測定尾数は36でそれ程多くはなく、二つのモードの出現は29年 9 月に始めて見られ 10. 11月と調査なく12月に再び見られたところなので 1 月以降の傾向が注目される。

(クロカワ)

クロカワの釣獲率が規則的周期変化をたどることは既知のところであるが12月は5°N 以北、以南共に低下を続けて居る。上昇し始めるのは 2 月頃になるのではないかと思われる。体長組成は170°E以西は 151—160cm が 11 月39.0%、12月 28.6%と12月は減少し、140cm以下が11.9%、16.4%と12月は増加しているが他は殆んど 11月と同形である。170°E以東は小型が多く略 4 つのモードから成つているが、44.7%を占める最も大きなモードは 151—160cm にある。此の海区の組成は周年著しい変化は見られないし細かい変化は不規則で明瞭ではない。

I ソロモン及びニューカレドニヤ海区

調査隻数はソロモン海区18, ニュカレドニア海区 9, 計27隻であるが内 1 隻は両海区にまたがつて操業して居り分割した資料なので調査した実隻数は26である。

又、ソロモン海区12月の方が操業回数、漁獲尾数共に多いので此の海区で1隻として数えた。主なる魚種の緯度別漁況は第2表の如くである。

Table 2　　ソロモン、ニューカレドニヤ海区緯度別漁況（29. 12）

区　分	操業区域	水温	調査隻数	操業回数	鈎　数		きはだ	めばち	びんなが	くろかわ	しろかわ	まかじき
0—5°S	1—3°S 152—157°E	28.2 30.3	1	26	37,840	尾　数 釣獲率	978 2.58	51 0.13		41 0.11	15 0.04	
5—10°S	7—11°S 153—158°E		4	44	129,500		3466 2.68	124 0.10	545 0.42	330 0.25	1017 0.79	361 0.28
10—12°S	9—13°S 144—157°E	26.6 29.6	7	126	224,898		8468 3.77	248 0.11	834 0.37	637 0.28	365 0.16	18 0.01
15—20°S	14—22°S 145—164°E	25.2 28.9	3	84	132,443		4217 3.18	381 0.29	610 0.46	283 0.21	1689 1.28	641 0.48
20—25°S	21—23°S 153—155°E	24.9 26.6	4	65	120,490		2817 2.34	114 0.09	502 0.42	273 0.23	329 0.27	1520 1.26

水温は10. 11月より高いが、更に12月は極めて明瞭に南よりに低くなつている。

（キ　ハ　ダ）

0—5°Sの低下して来た釣獲率が10月は3.40，11月は7.26と著しく高率になつた事は月報28号、鮪漁業19号で述べたが12月は2.58と再び激減した。此の著しい変化は150—160°Eに見られている変化であるが、140—150°Eのみを抽出してみると此の間に8月4.80，9月1.30，12月4.05と著しい増減をしている。此の変化は28年の8月5.30，9月1.20，12月6.20の増減と全く同じ傾向であり、150—160°Eの28年とも同じ傾向である。従つて150--160°Eの29年9. 10. 11月の変化は今後究明するとしても秋期の2. 3ヵ月のみ低率になるのは周期的変化であるかもしれない。5—10°Sの調査結果は殆んど150—160°Eの調査結果である。″9月に2.3前後に上昇して10月は1.4前後に低下した″と月報27号、鮪漁業18号で述べたが、此れを更に経度分析すると9月の2.3は160—170°Eでの率であり150—160°Eは28年7月—29年3月が2.0から4.0の高率で7月0.4と低下し10月1.4，12月2.7と次第に上昇し季節的周期ではないが比較的規則的変化をしている。10—12°Sの28年12月から29年7月にかけての漸減は月報29号、鮪漁業17号に、29年8月から11月にかけての複雑な変化は月報27，28号、鮪漁業18，19号に述べたが未だ明瞭には解らなかつた。しかし、此の調査結果は150—170°Eの率で殆んど構成されているので160°E線で東西に分析してみると両海域とも同様の極めて規則的な増減変化が見られ、29年8—11月の不規則な変化は150—160°Eと160—170°Eの率の増減が時間的にずれているためである事が明瞭となつた。150—160°Eは28年12月—29年6月4.7から1.0と低下し29年11月にかけて2.9と

上昇し12月は2.5と再び低下している。160—170°Eは29年1—4月に2.9から1.0と低下し29年11月にかけて3.3と上昇している。此れが周期的なものか否かは今後の調査に待つ。最も注目すべきことは12月の操業位置がアラフラ海入口附近に集中していることで之は29年3月にもみられたところである。後述する様にシロカワもこの部分に集中しており、この附近にはアラフラ海に於ける産卵と密接な関連があるものと思われる。20—25°Sは29年1月、28年11月の3.5，5.0から低下し始め5月から11月にかけて1.0附近の低率を続け12月は3.2，2.4と上昇し始め規則的変化をしている様である。之も前述のアラフラ海入口附近への大型キハダ群の集中と関連があると思われる。12—15°Sの7月、15—20°Sの9月の一時的高率は月報27，鮪漁業18号で期したが更に検討する必要があると思われる。ソロモン海区の体長組成は29年9月以降10，11，12月と次第に小型よりにずれて居り、28年の10，11月の小型よりへのずれ、12，1，2，3月にかけての大型へのずれと多少異る様であるが恐らく上述のアラフラ海入口附近へ集中する時期が約2カ月ずれているので30年1，2月の調査結果を見なくては解らいが大体同じ傾向を示すのではなかろうか。ニューカレドニア海区は28年11月と同様二つのモードが現われている。此の傾向は次第に現われて来たもので10月に121—130cm 1.29%、131—140cm 19.0%、11月に20.1，19.9%、12月に25.9，16.7%と11月には既にその徴候が見えて居たものであり、28年も略此の様な変化をしているので周期的傾向かもしれない。10月以降次第に小型よりにずれ、平均体長も10月139.4，11月137.3，12月136.0cmと小型となり、28年の11—2月大の型へのずれと全く逆の様であり、ソロモン海区と同傾向である。

（メ　バ　チ）

此の海区の低い釣獲率は既知の事であるが12月は15—20°Sで僅かに高くなつている、他の緯度分析したどの海域でも11月より更に低率である。体長組成はソロモン海区は夏、秋 28年に比べて散らばり（分散）が大きい。又、小型が多く、9月以降次第に小型よりにずれている。ニューカレドニヤ海区も散らばり（分散）は大きく121—130cm 20.7%と161—170cm 15.3%の二つのモードがある。ソロモン海区より僅かに大型よりのものが多い。傾向も前年度の調査と大体同じである。

（ビンナガ）

ソロモン海区の釣獲率は7，8月頃から10，11月頃にかけて低下して来た事は既述の事であるが12月は11月と同様低率を続け、ニューカレドニヤ海区は更に低下

を続けている。此の事は既知の南北洄游説と考え併わせると此の海区のビンチョウは30°S以南にまで洄游する様に思われるが、更に南は調査されていないので明瞭な事は解らない。ソロモン海区の体長組成は11月と全く同形であるが、ニューカレドニヤ海区は7月より11月まで91—100cmが最も多かつたのに対し12月は81—90cmが最も多くなつている。此の傾向は29年2月に見られたのみで、28年12月、29年1月には見られていないので検討する必要があると思う。

（クロカワ）

ソロモン海区の釣獲率の規則的上下変化は既知のところであるが、その波長及び最高率の月は年によつて非常に異る。しかし、此れを緯度分析すると各緯度毎には比較的規則的周期変化をしている様に思われる。然し殆んどの海域が調査されて間もないので周期的変化と断定する事は出来ない。

7月以降次第に上昇して来た釣獲率は11月から12月にかけては上昇の程度（勾配）が著しく小さくなり、又28年から29年にかけては28年12月頃が最も高率であつたところからも判断して釣獲率の変化は波を作りながら次第に小さくなつている（減衰曲線的変化）様で、1月頃からは低下し始めるかもしれない。旧南洋庁沿海南部で、2，3月頃から上昇するのではないかと推定されている事からも、うなずける事であるが、ニューカレドニヤ海区が29年1月0.72，2月0.72，であつたのに対し、29年から30年にかけては0.20と僅かに上昇したに過ぎないのでソロモン海区は或は12月以降2，3ヵ月の間は同率で続くかもしれない。体長組成はソロモン海区は11月より散らばり（分散）が大きく小型よりに偏つた形で28年12月と全く同様であり、10月以降の小型よりへのずれも28年と同様の傾向であり周期的なものと思われる。ニューカレドニヤ海区は7月以降次第に大型よりに偏つたまま散らばり（分散）が大きくなつて来たし、28年12月、29年1月も大きいが29年12月は散らばり（分散）は著しく小さくなり201—210cm 35.5%、その両側の191—200cm 29.1%を占めるモードが新しい傾向として現われた。

（シロカワ）

シロカワが周期的傾向に従つて11月はソロモン、ニューカレドニヤ両海区とも著しく高率になつた事は月報28号、鮪漁業19号で既述したが、両海区とも12月は更に上昇している。但し11月は12—15°Sで1.60という始業以来始めての高率で例外的にさえ思われた。12月は12—15°Sは調査されなかつたが、今度は15—20°Sで1.28という高率を出している。緯度分析の結果は10—12°Sは僅かに低下したが他海域は全く著しく上昇している。体長組成はソロモン海区は161—170cm、201

—210cm、ニューカレドニヤ海区は161—170cm、191—200cm と夫々二つのモードがあり、両海区近似しているがニューカレドニヤ海区の方が大型が多く小型が少い。このシロカワの北上は産卵のためと思われ、濠州、東北、海岸よりでアラフラ海入口附近で漁獲されたシロカワは放卵後のものが多く、その南でとれたものは熟卵をもつているものが多いと報告されている。このことから判断して11—12月にアラフラ海入口附近に集中したシロカワは恐らく同水域又はアラフラ海内で産卵することは略確実と思われる。

（マカジキ）

ソロモン海区の釣獲率は一般に低い。5—10°S は特別高いが10月の 0.71 より遙かに低い 0.28 であるから低下している事は確である。ニューカレドニヤ海区は10月から11月にかけて 25°S 以南が低下しているのに対して 15－20°S, 20－25°S は上昇していたが12月には 15－25°S の海域も低下している。15°S 以北で低率なところから 12月には大部分 30°S は南にまで南下したものと思われる。体長組成はソロモン海区は測定尾数が少い（15尾）ので明瞭ではないが 171—180cm が 40.0, 191—200cm が 26.7%で、ニューカレドニヤ海区の 181—190cm 17.9, 191—200cm 35.5, 201—210cm 29.1%の組成より小型よりが多い。

J 南支那海

調査隻数は 1, 11月より僅かに北東よりで操業している。水温は 26.7—27.1°cで11月より低い。

（キハダ）

10月から11月にかけて 3.24から 2.10といつたん低下した釣獲率は12月には 3.22 と再び10月と同率に上昇している。此の傾向はメバチにも全く同様に見られるが如何なる意味を持つものかは不明である。メバチと同様周期的傾向を持つているものなら 1 月頃からは漸減を始めるであろうが 2 年間の結果からでは何ともいい難い。体長組成は111—120cm 22.9%、131—140cm 34.7%で二つのモードがあり、4, 5 月の組成とは多少異る。

（メバチ）

メバチの釣獲率も10月まで規則的であり、12月もその傾向に従つているが、11月の著しい低率は例外的であり究明する必要がある。体長組成は測定尾数が38で少いのでモードの検討は出来ないが春に比べると小型が多い。

（カジキ類）

マカジキの釣獲率も12月は稍高くなつたがメカジキは10, 11, 12月にかけて0.3,

0.08，0.20と次第に高くなつている。27，28年の晩秋は調査されていないのでその傾向は解らない。

K バンダ、フロレス海区

調査隻数は8，全船4°S以南の南よりで操業している。水温は平均水温をとると11月より僅かに高い。

（キ　ハ　ダ）

釣獲率が規則的変化、しかも波を作りながらも次第に低下する傾向（減衰曲線的変化）は前号で既述したが28年2月、同年12月は一時的に低率になつている。今までは調査誤差として見過して来たが29年12月も11月より僅かに低下して居るので若し1月に11月と同程度の率に上昇したならば此の冬期の一時的低率も考察する必要があると思う。何れにせよ2月以降晩夏から初秋にかけて低下するであろう事は従来の周期的変化から推察する事が出来る。29年12月は釣獲率2.46で小スンダ、チモール沿海と全く同率であり、ジャワ沿海、濠州西方海区方面は更に高率となつている。体長組成は10，11月は同形であつたが12月は121—130cmが63.5％を占め、131—140cm 15.1，141—150cm 11.0％で27，28年にも見られなかつた形である。此の形は小スンダ、チモール沿海と全く同形であり、印度洋のキハダ群がバンダ海に入つたものと推定される。濠州東側では29年3月及び12月にアラフラ海入口附近に大型キハダ群が集中し、恐らく産卵と関連があるものと推定したがバンダ海に於ても29年1，3月及び11，12月の率は増加しており産卵と関連があるのではなかろうかと推定される。

（メ　バ　チ）

29年9月の釣獲率は月報26号、鮪漁業17号の記述の様に1隻が0.19，1隻が5.78であり、此の始めて見られた例外的高率を除くと、メバチの釣獲率は29年4月以降規則的変化になるが、此の5.78の高率の原因の不明と共に28年6—10月が調査されていないので明瞭な傾向は解らない。12月は11月より更に高く釣獲率1.01となつている。体長組成は10，11月及び27，28年の12月と全く同形で131—140cm 23.3，141—150cm 20.5，151—160cm 22.2％の散らばり（分散）の大きいモードを作つている。此の組成は小スンダ、チモール沿海より遙に大型の率が高い。

L 東部印度洋方面

小スンダ、チモール沿海

調査隻数は5，4隻は120°E以西の西端で、1隻はチモール島南側附近で操業している。水温は28.0−31°2°Cで9月の24.3—26.9°Cに比べ著しく高くなつている。

（キハダ）

釣獲率は27，28年共に12月は高く29年も12月は釣獲率2.35で6−9月の0.98—1.69より高い。大体27，28年共、冬季を中心として率が高く、春から夏の間は率が低くなり、大体、季節的な変化を示している様である。27年11，12月に始めてこの漁場が調査されたときは、釣獲率7—8程度の高率を示していたが、28年12月には最高4.2程度に減少しており年々率は低下している。12月の率は増加してバンダ海と略同率となりその体長組成もバンダ海と近似している点からみて、両海区のキハダが密接な関連がある様に思われる。

体長組成は前述した様にバンダ、フロレス海区と同形で121—130cmに51.8%というモードがある。

（メバチ）

2月から8月にかけて漸増し9月に稍低下した釣獲率は12月には9月の1.16から0.57と低下し、8月以降漸減している様である。28年から29年にかけての変化は不規則ではあるが大体キハダの増減と逆の様で夏季を中心として率が高く、冬季は稍低下する様である。

ジャワ沿海及びバンダ方面のメバチと如何なる関連があるか数字的には未だ判然としない、西特に12月の体長組成は、バンダ海、ジャワ沿海に比べてかなり型が小さく異つている様である。月報26号、鮪漁業17号で此の関連は秋期の西北進のためかもしれないと多少ふれたが、今後更に究明しなくてはそのはつきりとした傾向はわからない。体長組成は101—110cm 16.9%、121—130cm 32.5%と二つのモードがあり、バンダ、フロレス海区、ジャワ沿海、濠州西方海区より小型である。又、27，28年の12月より小型よりが多い。

（ビンナガ）

12月の釣獲率は0.45で9月より高い。チモール島附近の1隻は低率で西よりの4隻の方が高い。しかし、27，28年の調査では春の終から夏にかけて著しく高率になつているので3月頃までは著しく高率になる事はないのではないかと思われる。体長組成は91—100cm 70.0%、101—110cm 24.7%でジャワ沿海、濠州西方海区と全く同形、又、8月とは多少異るが5月とは殆んど同形である。

（インドマグロ）

釣獲率は9月2.16から12月は0.52と低下し、28年と同傾向であり、ジャワ沿海、濠州西方海区とも同傾向である。三海区共通な点としてビンナガの釣獲率の高い時はインドマグロは低率で、インドマグロの高い時はビンナガが低率である事は既述のところであるが、ビンナガの上昇、低下が終ると追いかけてインドマグロが上昇、低下をしている点も似ている。此の海区は1月以降8月頃迄は低率を続けるであろうと推定される。体長組成はジャワ沿海と同形で、141—170cmの範囲で中心は151—160cmにある。

(クロカワ)

印度洋のクロカワも太平洋のクロカワと同様の洄游するのではないかと思われるが、ベンガル湾方面の夏季から冬季の資料が少いので十分な比較は出来ない、此の海区の釣獲率は印度洋諸海区中最も規則的周期変化をしている。28年も29年も1—3月頃高く7—9月頃低く大体冬季に多く夏季に減少している。29年12月は0.42で僅かながら増加しており冬季の増加を示しているようである。恐らく30年1月頃からは高率になるのではなかろうか。体長組成は171—180cmにモードがあり、濠州西方海区、及び小スンダ、チモール沿海27，28年の12月の組成と多少異り小型よりにモードが移つている。

(シロカワ)

釣獲率は9月の0.34より0.18と低下している。その変化は規則的であるが複雑であり、ジャワ沿海と略似た変化で年に2回冬季と夏季に増加し春と秋に減少する模様であるが、更に究明する必要がある。体長組成は濠州西方海区と全く異り、小型が多い。

ジャワ沿海

調査隻数は3，平均水温は11月より高い。船間の漁況の差はビンナガとインドマグロに見られている。

(キハダ)

29年1月—9月の間低下したキハダの釣獲率は10月以降回復の兆候を示し12月の釣獲率も2.99となつている。此の海区のキハダの釣獲率は東よりに低い傾向が見られた事は(季節的変化は解らないが)月報27号、鮪漁業18号にふれてあるが12月もほぼその傾向が見え西よりで操業した1隻だけが3.31で東よりの2隻は2.67，2.73となつている。体長組成は型が大きく中、大型魚が主体で121—130cm、141—150cmにモードが現われ、濠州西方海区12月の組成と近似している。71—80cmに小さなモードが現われている点も濠州西方海区と同型である。12月の大型魚の率は41%に達し9月以降次第に型は大きくなつている。

(メ バ チ)

ジヤワ沿海のメバチは規則的な季節変化を示し、夏から秋にかける率が高く、冬季は低下している。29年の夏は4月から8月に漸増し、9月に一時低下したが、10月には再び急増しその後12月まで再び漸減し、12月の釣獲率は1.11となつている。恐らく明年春までは更に減少するものと思われる。12月の3隻の中、西よりの1隻は率が最も高く1.31となつており又、濠州西方海区の12月の釣獲率は2.88で、スマトラ島南側水域が著しい高率を示している。体長組成は小スンダ、チモール沿海よりは大型よりが多く、131—150cmが45.8%で141—150cmが最も多く、濠洲西方海区と殆んど同形である。しかし、濠洲西方海区に見られる様な小型に現われた小さなモードは見られない。11月より組成は稍大型よりに偏している程度であるが、28年12月の組成とは散らばり（分散）が多少大きくなつている程度で殆んど同形である。

(ビ ン ナ ガ)

釣獲率が規則的周期的変化をたどつている事は月報27号、鮪漁業18号にも既述したが12月もその規則的変化にに従つて低下している。10月に一旦低下した率は11月に稍増加しているのが、この現象は28年にもみられたところである。12月の率は3月の中、ジヤワ島西よりの1隻のみがつれてジヤワ島東よりの1隻は殆どつれていない。又、濠洲西方海区のスマトラ島南側水域では尚1.71の率を示しているところからみて、ジヤワ沿海で11月に増加したビンナガは北赤道流と赤道交流の漸増のビンナガ群がスマトラ島、からジヤワ島沿岸にそつて南下したものではないかと推察される。体長組成は小スンダ、チモール沿海及び濠洲西方海区と全く同型である。

(インドマグロ)

東部印度洋の釣獲率がビンナガの上昇、低下に追いかけて上昇低下している模様であると前述したが、此の海区のインドマグロは夏から秋ビンナガの低下に従つて上昇し春ビンナガの上昇に従つて低下し、その間9，10月に増加し11，12月頃にいつたん低下し、再び1—3月には増加し年に二つの波を作つている様である29年12月は11月著しく低率になつた後上昇し始め上記の推察をたどつている様に思われる。体長組成は小スンダ、チモール沿海と同形であり、28年12月とも同形であるが散らばり（分散）が僅かに小さく151—160cmが64.6%を占めている。

(カ ジ キ 類)

クロカワの釣獲率は0.29で11月と全く同率で10月以降僅かに上昇しているが、ス

マトラ南側水域では、釣獲率0.67でかなり増加している様で恐らく30年1月にはジャワ島西よりから増加するのではなかろうか。シロカワの変化は小スンダ、チモール沿海と同様、夏季と晩秋の2回増加する模様である。大体スマトラ島以西では少くジャワ島から東、バンダ海にかけては多くその範囲で局部的な洄游をしている様に思われる。12月の率をみるとジャワ島西よりに稍多い様である。

マカジ、キメカジキは共に9月以降漸減を続けている。マカジャは秋期増加するが28年は11月に釣獲率0.52まで増加したが、29年度は稍時期が早く9月に最高0.18を示したのみでその後漸減している。

マカジキの体長組成は濠洲東側水域より小型である事は既知のところであるが、小スンダ、チモール沿海、濠洲西方8—10°S, 101—104°Eと比較するとモードのある場所は171—180cmで同様であるが西よりに大型よりが増えている。

濠洲西方海区

調査隻数は1, 8—10°S, 101—104°Eのジャワ沿海西方で操業して居り、東部印度洋10°S線の東西関係が解るので、此の漁況は重要な意味を持つものと思う。しかし、9—11月は此の海域は調査されて居ず、その変化の傾向が解り難い。

(キ　ハ　ダ)

キハダの釣獲率は冬高く夏低い様である事は月報第27号、鮪漁業16号でふれたがその推察を裏書きする様に12月は3.38で8月の同海域の0.88より高い。但し操業位置はスマトラ島南側水域で大体スマトラ西岸沿海に近い率を示しており前述のジャワ沿海の西よりの1隻とも近似している。体長組成はジャワ沿海と全く同形で三つのモードを持ち121—130cm 24.2, 131—140cm 20.8, 141—150cm 26.8%を占めている。

(メ　バ　チ)

メバチの釣獲率はスマトラ南側から小スンダ、チモール沿海までの間では西よりに高く、小スンダ、チモール沿海0.57, ジャワ沿海1.11, 濠洲西方海区2.88, となつているが、此の傾向は29年8月の夏にも見られ、濠洲西方海区9—12°S, 103—105°Eで操業した船の釣獲率1.70を抽出すると、小スンダ、チモール沿海1.29, ジャワ沿海1.66, 濠洲西方海区1.70と西よりに高く、同じ様な傾向の様に思われる。各月についても更に検討する事が必要であろう。体長組成は前述の如く91—100cmに小さなモードが見える他はジャワ沿海と全く同形である。

(ビ　ン　ナ　ガ)

濠洲西方海区の釣獲率も東部印度洋他海区と同様春から夏高く、冬低率である。

此の12°S以北90—105E°の海域も5，6月は6.49，4.23，2.31と高率で秋から冬にかけては8月1.75，12月1.71で春に比べて低率である。体長組成はジャワ沿海と同形、28年12月の101—110cmにモードのある組成に比して同じ中型であるが91—100cmにあり小型よりにずれている。

（インドマグロ）

附近他海区と同様8月から10月にかけて上昇した釣獲率は12月にかけて低下し、全く釣れていない。

（クロカワ）

クロカワの釣獲率は東西で相異はないが率は共に高くなつている。10月に比べると12月は稍低率であるが、10月は20—21°S，108°—111°Eで操業しているので、更に分析して究明する必要がある。同海域の8月の釣獲率と比較すると約倍増しており前述のジャワ沿海西よりの1隻の増加と共に冬季南下の兆候が現われているものと思われる。体成組成は中心が171—190umにより型は相当大きい。

（その他）

シロカワは全体的に見て漸増している様であるが、此の海域は8月と同率である。マカジキ、メカジキの釣獲率は低下を続けている。

M 北部太平洋方面

35—40°N，150—180°Eの海域

調査隻数は5，全隻160—170°Eの海域で操業している。11月は150°E以東では35°N以北26隻、30—75°N15隻であつたが、12月は25°N以北は5隻に減少し30—35°N，17隻に増加し魚群の南進を示している。平均水温は11月は21.3—18.0°C，12月は19.3—17.4°Cで低くなつている。

（メバチ）

8月に1.58を示した釣獲率は次第に低下し月報27号、鮪漁業18号で推察した様に、10月1.08，11月0.96，12月は更に著しく0.34と低下している。既述の如く、略周期的なので恐らく3，4月の春頃から上昇し始めるものと推察される。体長組成は111—120cm 22.8，141—150cm 20.7%と二つのモードがあり、30—35°N，150—180°Eの海域に見られる様な極小型魚のモードは見られない。又、同緯度附近の西経海区より全体的に大型にずれて居り、モードが一つ少い。

（ビンナガ）

ビンナガの釣獲率にメバチと逆に8月以降上昇している事は月報27号、鮪漁業18号に既述したが12月は更に上昇し4.33となつた。しかし、27,28年及び30—35°S

150—180°Eの海域の傾向とから1，2月頃に恐らく低下するものと推察される。体長組成は周囲の海区と著しく異り61—80cmの小型が72.3%で全体的に非常に小型であり。又、10月、11月、28年11月の組成よりも小型で著しく異つている。

（マカジキ、メカジキ）

マカジキの釣獲率は10月に僅かに上昇したが11月以降再び低下し、12月は0.04となつた。12月以降の傾向は28，29年共に調査されなかつたし、30—35°N，150—180°Eの海域の傾向とも異るので30年1月以降の傾向も推察出来ない。体長組成は30—40°N，180—140°Wの海域よりは著しく小型であるが、ミツドウエー海区30—35°N、150—180°Eの海域と同型である。

メカジキの釣獲率は28年は6月から12月にかけて次第に増加している、29年は11月まで低率を続け僅かに上昇していたが、12月に到つて11月の0.08から1.06と激増した。周囲海区で此の様な高率は見られないが、12月に到つての上昇は、東北海区に見られている。体長組成は大型よりのモードは30—35°N，150—180°Eの海域と同様151—160cmにあるが、小型よりのモードは131—140cmにあり30—35°N，150—180°Eの海域より稍大型よりである。

30—35°N，150—180°E の海域

調査隻数は150—160°E 10，160—170°E 1，170—180°E 8，計 19で、11月の15隻より更に多い。水温は11月より低い。

（メ　バ　チ）

秋期にかけて上昇した釣獲率は28年と同様の周期的変化をたどり、10月以降低下を続けている。11月から12月にかけても、150—160°E，160—170°E，170—180°Eのどの海域も低下している。此の海区は35—40°N，150—180°Eの変化傾向より稍おそく4月頃から上昇するのではないかと思われる。釣獲率は150°Eから140°Wの範囲では東よりに高い事は35—40°N，150—180°Eの海区の10月の傾向と全く逆である。

体長組成は前述の如く91—100cm 26.0%、111—120cm 16.3%、141—150cm 9.7%と三つのモードが現われて居り、3番目のモードが稍大型よりにずれた以外は11月と全く同傾向である。

（ビンナガ）

前項に於いて35—40°N，150—180°Eの海域で12月まで上昇して来た釣獲率は、1，2月頃から低下するのではないかと推察したが、30—35°N，150—180°Eの海域では9月以降上昇しながらもその上昇の差（勾配）は次第に小さくなり、やが

て低下に移る兆候を見せている。恐らく、1，2月頃に低下し始めるのではないかと思われる。体長組成は前述の如く30—35°N，175—167°Wの海域と全く同形で81—90cmに53.4%のモードがあり、91—100cm 16.2%、101—110cm 10.6%である。ミツドウエー海区、西部太平洋亜熱帯海区は組成が更に大型にずれて居り、伊豆東方海区の小型よりのモードは此の海区と同形であるところからも、167°W以西では35°Nから20°Nにかけて、体長は南よりに大きくなつている。

（マカジキ、メカジキ）

9月から11月にかけて上昇して来たマカジキの釣獲率は、11月から12月にかけては低下し、28年と同様の周期的変化をたどつている。体長組成は前述の様に、35—40°N，150—180°Eの海域と同形であるが、その散らばり（分散）は僅かに小さい。メカジキの釣獲率も11月に僅かに低下したが12月は再び上昇し略28年と同傾向で上昇している様である。体長組成は前述の様に二つのモードが121—130cm 12.9%と151—160cm 15.8%にある。此の海区のマカジキ、メカジキと、35—40°N，150—180 Eの海域のマカジキ、メカジキとその傾向の異る事は注目される事と思う。更に検討する事によつて洄游路を知る事が出来るかもしれない。

東　北　海　区

調査隻数は1，35°N附近で操業しているが、メカ縄船でメカジキとサメが多く釣れている。

（メ　カ　ジ　キ）

10月の0.02という釣獲率は12月に到つて0.65と著しく高くなつたが、12月はメカ縄のため、10月との比較は困難と思われる。しかし、28年12月にもメカ縄のみのメカジキの釣獲率は、調査隻数3，鈎数44,755本、尾数376尾、釣獲率0.84で大体同様の傾向を示している。又、附近海区のメカジキの釣獲率も上昇しているので冬期に高い様子は略推察される。

伊豆東方海区

調査隻数は17，29年4月の23隻以後夏から秋は2，3隻で少かつたが12月に到つて再び著しく増加し、ビンナガが西南進してきたことを示している。

（メ　バ　チ）

釣獲率は極めて低く、11月よりも低い。又、150°E以東よりも極めて低い。体長組成は西部太平洋亜熱帯海区と同形で91—100cmに34.7%という一つのモードが見られ110cm以下のダルマが63%で過半数を占め、小型26%で中型以上は極め

て少い 30—35°N，150—180°E の海域は 91—100cm 26.0，111—120cm 16.3，141—150cm 9.7％と三つのモード、30—35°N，180—140°W の海域は 101—110 cm 25.3，121—130cm 17.5，141—150cm 9.4％で、此れらの海区と比較すると、メバチの体長は西よりに小型になり、既知の如く西部太平洋亜熱帯海区と同傾向である。

（ビンナガ）

11月の1隻はメカ縄を使用したため、ビンナガは少かつたが12月は釣獲率0.95となつている、此れは、27，28年と同傾向で、既に最高に達している 50—52°N，150—180°E の海域のビンナガが既知の如く、ぞくぞくと西進して来て居る。恐らく、3月頃迄著しく上昇するものと思われる。28年12月には20隻の平均釣獲率は1.69となつており、今年の方が少い様である。又、急激に南進している模様で33°N 以南で操業した船の方が率が高い様に思ははれる。体長組成は、30—35°N，150—180°E の海域と似ているが、モードが一つであるのに対してこの海区は二つあり、第1のモードは71—80cmが46％を占め第2のモードは 101—120cmが約34％を占めており、大型の多い西部太平洋亜熱帯海区と 30—35°N，150—190°E の中間の大きさを示している。

（メカジキ）

伊豆東方海区の釣獲率は、東北海区、南海々区と略同様の春低率、秋高率（冬にかけて）の周規的変化をたどつているが、29年は11月1.20と極めて高く、12月 0.3と激減している。しかし、11月の率はメカ縄1隻の調査結果であり、12月は両船の合計でメカ縄船のみの率は11隻、鈎数141,542本、尾数928尾、釣獲率0.66で、上述の東北海区と同率を示している。体長組成は、30—35°N，150—180°E の海域の 121—130cm と 151—160cm に見られた二つのモードが一つに併わさつた様に121—140cm に 30.6％と一つのモードとなつている。

南海々区

調査隻数は2，1隻は不明であるが1隻は青ケ島西方、汐岬東南方で操業している2隻とも漁獲物はメバチ、サメのみで共に高率である。

（メバチ）

釣獲率は28年と全く同変化で10月から12月にかけて著しく低下している。若し、此の同変化が周期変化の現われならば恐らく12月以降は28年1，2月、29年1月以降と同様4，5月頃に向つて漸減するものと推察される。

西部太平洋亜熱帯海区

調査隻数は130—140°E 9, 140—150°E 1, 160 −170°E 1. 計20で全船 170°E 以西で操業している。伊豆東方海区でもみられた様にビンナガは 130—150°E の間に集中し、南下速度が極めて早い様に思われる。主なる魚種の経度別漁況は第3表の如くである。

Table 3　　西部太平洋亜熱帯海区経度別漁況　　29.12

区　操	分業区域	調査隻数	操業回数	鈎数		きはだ	めばち	びんなが	まかじき	めかじき
130−140°E	20— 31°N 132−142°E	9	117	154, 242	尾数 釣獲率	843 0.55	672 0.44	853 0.55	135 0.09	96 0.06
140−150°E	22— 32°N 138−149°E	9	124	134, 465		112 0,08	384 0.29	1495 1.11	111 0.08	127 0.09
150−160°E	20— 33°N 154—160°E	1	22	23, 120		54 0.23	190 0.82	40 0.17	42 0.18	6 0.03
160—170°E	27— 30°N 167−170°E	1	18	29, 150		6 0.02	780 2.68		6 0.02	9 0.03

経度によつて釣獲率は著しく異るが150°E 以東ではビンナガが極めて少く、メバチの多いのが注目され、130 - 150°E の間では大体 25°N 附近を境に南側にキハダ、メバチが多く、28°N以北にビンナガが多くなつている。

(キ　ハ　ダ)

キハダの170°E 以西の釣獲率は極めて規則的周期変化をたどつている事は既述のところであるが9月 1.09, 11月 0.72, 12月 0.30 と28年と同様の低下現象を続けいる。恐らく2月頃迄低下を続け以降4月頃から上昇し始めるものと推察される。経度別にみれば 130°—140°E が 0.55 で著しく率が高く、特に25°N以南の率が高い。体長組成は周囲海区と同様、特に旧南洋庁沿海南部、同北部と同様71—90cm 26.7%、121—140cm 42.7%、の二つのモードが現われている。此の型は29年1月と全く同じ傾向である。小型よりのモードは月によつて変化があるが、大型よりのモードは周年変化がない様である。

(メ　バ　チ)

メバチの釣獲率も170°E 以西は周期的変化をたどり、9月 0.28, 11月 0.48、12月 0.70 と28年と同様の上昇（勾配も等しい）をたどつている。恐らく29年1月以降と同様30年1月頃から低下し始めるものと推察される。此の海区の 170°E以東は殆んど調査されていないので比較する事は出来ないが、旧南洋庁沿海北部の170°E 以東と比較すると前者の高い時、後者は低く、後者の高い時前者の低い様に思われるが関連があるかどうかは不明である。体長組成は前述の伊豆東方海区と近似しているが、更に型が小さく、61—80cm に第1のモードが現われ、91—

100cm， 111—120cm に第2，第3，のモードが現われ更に 141—150cm にも小さなモードがみられる。151cm 以上の大型魚は 6％程度で少い。

此の組成は28年12月から29年2月にかけての組成とも全く同型で、周規的変化をするものらしい。

（ビンナガ）

ビンナガの釣獲率も冬高く、夏低い周期的変化をたどつて10，11，12月と28年と全く同様に上昇し始めた。2月頃に向かつて著しく上昇し、後、又、著しく低下する事が推察される。此れは北方のビンチョウが南下して来ている事を現わしている事は既知のところであろう。又、伊豆東方海区と全く同傾向であり、東北海区は低いところから 30—35°N，150—180°E の海域のビンナガは前述の如く西進と南下の両方を行つているらしい。12月は 140°—150°E の間の28°N 以北で率が高くなつている。体長組成は、28年12月と略同様 81cm 以上であるが、稍型が大きく 81—100cm 40.8％、101—120cm 58.3％で大型の率がかなり高い。137°—160°E の間では東よりに大型の率が高くなつている。

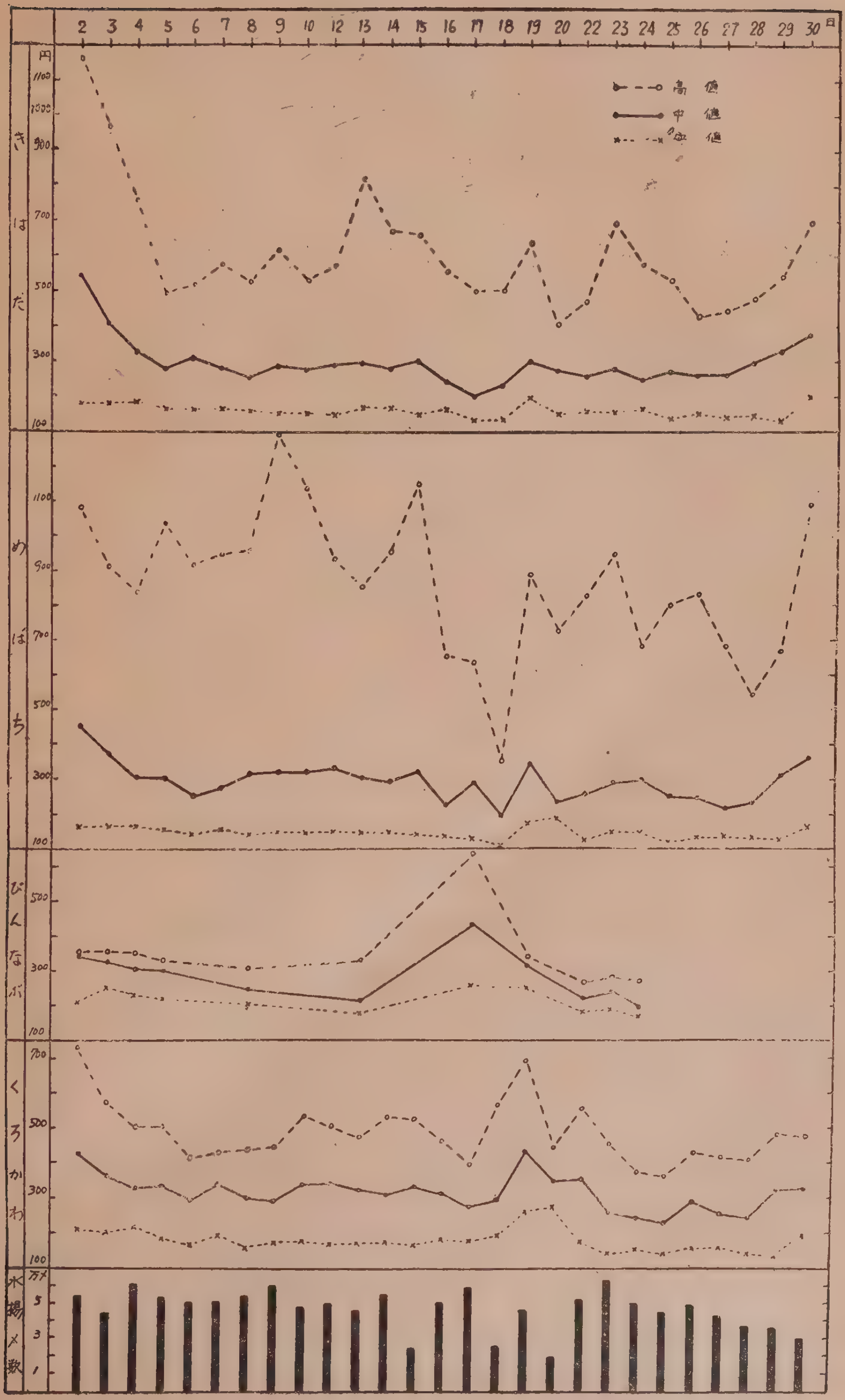
（マカジキ）

此の海区 170°E 以西の釣獲率は28年4—6月に高く 8，9月に低下し、12月にかけて僅かに上昇し 0.1 近くになつて29年1，2月と再び僅かに低下している。3月以降は28年と同変化で周規的変化をたどり 6月にかけて 0.5近くにまで上昇し 9月にかけて低下している。11月 0.03，12月 0.09 と僅かに上昇した傾向は28年と同変化であり周期的傾向の様に思われる。従つて、恐らく 1，2月頃に向かつて僅かに低下し、3月頃以降夏にかけて上昇するものと思われる。体長組成は、150—160cm にモードがあつて北方海域より組成が小型よりにずれて居るが、更に 130cm 以下の極小型が多く 26.7％ を占めている。旧南洋庁沿海北部は151—160cm の 23.5％のモードの他、此の極小型が47.1％を占め30—35°N，150—180°E，35—40°N，150—180°E，伊豆東方海区及び旧南洋庁沿海北部と比較すると，南にゆくに従つて組成は小型よりに移つている。

（メカジキ）

メカジキの釣獲率も、略周規的変化をしているが 9月以降は28年と全く同傾向の上昇変化をしている。恐らく 4月頃にかけて上昇を続け後秋に向かつて低下するのではないかと推察される。体長組成は、二つのモードを持ち第2のモードは 121—130cm にあつて、周囲海区と大差ないが、第1のモードは110cm以下にあり 100cm 以下の極小型が 21.8％を占め、マカジキ、メカジキを通じ、140°E 以西の黒汐流域に極小型魚が集中している模様である。

鮪類水揚價格表(三崎)30年4月



月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁　場	操業区域	調査隻数	水温(℃)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数		まきはだ	めばち
0—20°N 140°W以東	5—10°N 142—130°W	3	24.9 27.1	E/N -S E/S W S W 1.5, 1.6	99	37,924	163,166	尾　数 鈎獲率 百分率	1566 0.96 18.0	6080 3.73 70.0
ハワイ南東	7—8°N 148—140°W	1	25.8 27.2		14	5,695	23,480		51 0.22 5.8	692 2.95 78.3
30—40°N 180—140°W	28—34°N 180—167°W	9	17.2 23.8	W, 0.5	203	65,592	316,753		13 0.0 0.1	6176 1.95 58.6
ミッドウエー	25—34°N 170—164°W	6	18.6 26.0	S W —W N W 0.1	134	43,075	195,455		222 0.11 4.4	4121 2.11 81.2
ハワイ南西 5°N以北	4—11°N 175—171°W	1	26.2 27.8		14	4,692	23,460		101 0.43 21.7	322 1.37 69.2
トンガ	19—22°S 174—171°W	1	25.8 26.3		19	6,485	32,425		346 1.07 12.2	28 0.09 1.0
南洋北部 170°E以西	15—22°N 130—135°E	2	24.9 28.4		28	6,735	30,385		395 1.30 39.4	157 0.52 15.7
南洋北部 170°E以東	10—19°N 173—176°E	1	26.8 27.4		23	7,185	35,925		413 1.15 37.7	488 1.36 44.6
南洋北部 計	10—22°N 130—176°E	3	24.9 28.4		51	13,920	66,310		808 1.22 38.5	645 0.97 30.9
南洋南部 170°E以西	0—9°N 131—164°E	8	28.0 29.8		119	39,740	190,250		5600 2.94 69.7	1526 0.80 19.0
南洋南部 170°E以東	1—8°N 167°E—179°W	1	26.3 27.2		24	8,284	41,420		769 1.86 70.1	133 0.32 12.1
南洋南部 計	0—9°N 131E—179W	9	26.3 29.8		143	48,024	231,670		6369 2.75 69.7	1659 0.72 18.2
ソロモン	8—16°S 142—157°E	17	26.6 30.3	N N W N, E	369	141,412	643,272		20820 3.24 63.0	884 0.14 2.7
ニューカレドニヤ	14—23°S 146—156°E	9	21.3 28.9		188	69,472	316,513		8177 2.58 4.7	632 0.20 0.4
南支那海	14—15°N 114—115°E	1	26.7 27.1		13	4,340	17,360		559 3.22 65.6	239 1.38 28.1

(昭和29年12月操業分)

(別表 1)

ぐ	ろ		か	じ		き							
AL びんなが	BF 黒まぐろ	SBF いんどまぐろ	BM くろかわ	WM しろかわ	SM まかじき	BB めかじき	SF ばしょう	かつを SJ	雑 Msc	さめ SK	Total 計	Notes 記事	
			396	14	171	48	78	94	39	200	8,686	サメ未調査隻数	2
			0.24	0.01	0.10	0.03	0.05	0.06	0.02	0.12	5.32	体長測定船数	3
			4.6	0.2	2.0	0.6	0.9	1.1	0.4	2.3	100		
			120	2		9	10				884		1
			0.51	0.01		0.04	0.04				3.76		0
			13.6	0.2		1.0	1.1				100		
2889	3		21		204	371		15	64	791	10,547		4
0.91	0.0		0.01		0.06	0.12		0.0	0.02	0.25	3.33		7
27.4	0.0		0 2		1.9	3.5		0.1	0.6	7.5	100		
287			67	2	75	63			22	218	5,077		3
0.15			0.03	0.0	0.04	0.03			0.01	0.11	2.60		5
5.7			1.3	0.0	1.5	1.2			0.4	4.3	100		
			32	3	5		2				465		1
			0.14	0.01	0.02		0.01				1.98		1
			6.9	0.6	1.1		0.4				100		
1946			257	5	139	8	8	13	96		2,846		1
6.00			0.79	0.02	0.43	0.02	00.2	0.04	0.30		8.78		0
68.4			9.0	0.2	4.5	0.3	0.3	0.5	3.4		100		
241			15	1	34	25	1		86	47	1,002		0
0.79			0.05	0.0	0.11	0.10	0.0		0.28	0.15	3.30		2
24.1			1.5	0.1	3.4	2.5	0.1		8.6	4.7	100		
5			103		12				74		1,095		1
0 01			0.29		0.03				0.21		3.16		0
0.5			9.4		1.1				6.8		100		
246			118	1	46	25	1		160	47	2,097		1
0.37			0.18	0 0	0.07	0.04	0 0		0.24	0.07	3.16		2
11.7			5.6	0.0	2 2	1.2	0.0		7.6	2.2	100		
79			615	29	5	8	166		5	4	8,037		7
0.04			0.32	0.02	0.0	0.0	0.09		0.0	0.0	4.22		3
1.0			7.7	0.4	0.1	0.1	2.1		0.1	0.0	100		
6			134	4	3	2	15	17	14		1,907		1
0.01			0.32	0.01	0.01	0.0	0.04	0.04	0.03		2.65		1
0.5			12.2	0.4	0.3	0.2	1.4	1.5	1.3		100		
85			749	33	8	10	181	17	19	4	9,134		8
0.04			0.32	0.01	0.0	0.0	0.08	0.01	0.01	0.0	3.94		4
0.9			8.2	0.4	0.3	0.1	2.0	0.2	0.2	0.0	100		
3616			1750	3005	527	65	922	33	848	598	33,068		12
0.56			0.27	0.47	0.08	0.01	0.14	0.01	0.13	0.09	5.14		8
10.9			5.3	9.1	1.6	0.2	2.8	0.1	2.6	1.8	100		
1371	1		645	2731	2642	120	31		808	231	17,389		7
0.43	0.0		0.20	0.86	0.83	0.04	0.01		0.26	0 07	5.49		6
0.8	0.0		0.4	1.6	1.5	0.1	0.0		0.5	0.1	100		
			4	2	3	35			8	2	852		0
			0.02	0.01	0.02	0.20			0.05	0.01	4.91		1
			0.5	0.2	0.4	4.1			0.9	0.2	100		

漁場	操業区域	調査 隻数	水温 (℃)	流向 流速	操業 回数	漁具数	鈎数		ま	
									きはだ	めばち
Banda- バンダ フロレス Flores	4—9°S 122—132°E	7	27.7 31.0		114	38,924	193,627	尾数 釣獲率 百分率	4764 2.46 62.4	1957 1.01 25.6
Lesser Sunda 小スンダ チモール Timor	9—15°S 116—120°E	4 (1)	27.3 31.2	NE, E 0.7	35	31,228	151,200		3546 2.35 47.6	862 0.57 11.6
Java ジャワ沿海 Coast	9—13°S 108−119°E	3	26.9 30.2		68	29,505	126,313		3780 2.99 54.8	1402 1.11 20.3
W. of Australia 濠洲西方	8—10°S 101—104°E	1	27.2 28.6		21	7,539	37,695		1273 3.38 37.4	1086 2.88 31.9
35—40°N 150—180°E	34—39°N 161—169°E	5	17.0 20.1	E, ESE	73	15,875	92,050		3 0.0 0.0	316 0.34 4.3
30—35°N 150—180°E	28—37°N 148—180°E	19	15.0 24.3	E, NE, 0.5, 2.0	365	98,049	522,749		230 0.04 1.1	3671 0.70 17.6
NE Sea 東北海区 Area	34—36°N 145—174°E	1	18.8 20.4		12	1,560	14,040			12 0.09 1.5
E. of Izu 伊豆東方	29—36°N 140—149°E	17	18.2 23.8		258	39,546	256,951		54 0.02 0.6	385 0.15 4.3
Nankai 南海々区 Sea Area	32—33°N 137—138°E	2	18.4 20.5		20	1,915	11,210			64 0.57 37.9
W. Pacific 西部太平洋	20—33°N 132—170°E	20	28.2 27.0		281	58,553	340,977		1015 0.30 11.2	2026 0.59 22.4
Total 計		137			2738	825,279	4,074,666		60874 1.49 34.8	35563 0.87 20.3

（別 表 1）

ぐ ろ			か じ き					かつを	雑	さめ	計	記事
びんなが	黒まぐろ	いんどまぐろ	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
			408 0.21 5.3	262 0.12 3.1	17 0.01 0.2	45 0.02 0.6	99 0.05 1.3		61 0.03 0.7	21 0.01 0.2	7,634 3.94 100	サメ未調査隻数 6 体長測定船数 1
683 0.45 9.2		784 0 52 10.5	634 0.42 8.5	267 0.18 3.6	74 0.05 1.0	42 0.03 0.6	83 0.05 1.1	47 0.03 0.6	101 0.07 1.4	326 0.22 4.4	7,449 4.93 100	3 3
267 0.21 3.9		695 0.55 10.1	366 0.29 5.3	226 0.18 3.3	93 0.07 1.3	28 0.02 0.4	32 0.03 0.5		1 0.0 0.0		6,890 5.45 100	3 1
645 1.71 19.0		2 0.01 0.1	254 0.67 7.5	85 0.23 2.5	34 0.09 1.0	10 0.03 0.3	12 0.03 0.4		1 0.0 0.0		3,402 9.03 100	1 1
3984 4.33 53.6			1 0.0 0.0		33 0.04 0.4	974 1.06 13.1		1 0.0 0.0	26 0.03 0.4	2089 2.27 28.1	7,427 8.07 100	0 3
14689 2.81 70.4	2 0.0 0.0		27 0.01 0.1	1 0.0 0.0	348 0.07 1.7	597 0.11 2.9		17 0.0 0.1	172 0.03 0.8	1103 0.21 5.3	20,857 3.99 100	3 10
3 0.02 0.4					1 0.01 0.1	91 0.65 11.1			8 0.06 1.0	702 5.00 85.9	817 5.82 100	0 1
2429 0.95 27.1	7 0.0 0.1		10 0.0 0.1		145 0.06 1.6	1011 0.39 11.3		3 0.0 0.0	7 0.0 0.1	4920 1.91 54.8	8,971 3.49 100	0 5
										105 0.69 26.2	169 1.51 100	0 0
2388 0.70 26.5			43 0.01 0.5	2 0.0 0.0	294 0.09 3.3	238 0.07 2.6	3 0.0 0.0	2 0.0 0.0	649 0.19 7.2	2365 0.69 26.2	9,025 2.65 100	0 9
35859 0.88 20.5	13 0 0 0.0	1481 0.04 0.8	6769 0.17 3.9	6675 0.16 3.8	4913 0.12 2.8	3825 0.09 2.2	1644 0.04 0.9	259 0.01 0.1	3269 0.08 1.9	13773 0.34 7.9	174,917 4.29 100	54 70

Length frequencies (Dec. 1954 operations)

月別、漁場別、鮪類体長組成表（昭和29年12月操業分）

（別表 2）

魚種	測定船数	漁場	操業区域	操業回数	尾数 / %	50 cm 以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151 cm 以上	計	漁獲尾数
	3	0—20°N 140°W以東	5—10°N 146—130°W	99	尾数			3	5	8	23	96	43	92	151	131	81	633	1566
					%			0.5	0.8	1.3	3.6	15.2	6.8	14.5	23.9	20.7	12.8	100	
	1	30—40°N 180—140°W	28—32°N 175E—167°W	26						1		2	6	1	1			11	11
										9.1		18.2	54.5	9.1	9.1			100	
	2	ミッドウェー	25—32°N 177—168°W	55									1	1	3	3	3	11	37
													9.1	9.1	27.3	27.3	27.3	100	
き	2	南洋北部 170°E以西	15—22°N 130—135°E	28		2		1	26	3			17	93	73	17		232	395
						0.9		0.4	11.2	1.3			7.3	40.1	31.5	7.3		100	
	3	南洋南部 170°E以西	0—9°N 133—164°E	47				3	11	3	4	21	173	301	125	8		649	1899
								0.5	1.7	0.5	0.6	3.2	26.7	46.4	19.3	1.2		100	
	1	南洋南部 170°E以東	1—8N 167E—179°W	24						1	1		6	64	25	3	2	102	769
										1.0	1.0		5.9	62.7	24.5	3.0	2.0	100	
	8	ソロモン	0—16°S 142—157°E	163		5	2	5	20	41	39	186	233	458	588	500	240	2317	9684
						0.2	0.1	0.2	0.9	1.8	1.7	8.0	10.1	19.8	25.4	21.6	10.4	100	
	6	ニューカレドニヤ	16—29°S 145—172°E	117							2	8	161	438	280	477	323	1689	5101
											0.1	0.5	9.5	25.9	16.7	28.2	19.1	100	
は	1	南支那海	14—15°N 114—115°E	13						1			19	10	31	17	5	83	239
										1.2			22.9	12.1	37.4	20.5	6.0	100	
	1	バンダフロレス	5—8°S 126—131°E	23									29	202	45	35	4	318	731
													9.1	63.5	15.1	11.0	1.3	100	
	3	小スンダチモール	9—15°S 116—120°E	49							2	9	32	328	129	95	38	633	2060
											0.3	1.4	5.1	51.8	20.4	15.0	6.0	100	
	1	ジャワ	8—11°S 102—113°E	34		1		2	54	6	6	9	65	254	218	281	154	1050	2028
						0.1		0.2	5.1	0.6	0.6	0.9	6.2	24.2	20.8	26.8	14.7	100	
だ	1	濠洲西方	8—10°S 101—104°E	21				12	51	16	5	8	58	224	116	151	70	711	1273
								1.7	7.2	2.3	0.7	1.1	8.0	31.5	16.3	21.2	9.8	100	
	1	35—40°N 150—180°E	34—36°N 162—167°E	19											1	1		2	3
															50.0	50.0		100	
	1	30—35°N 150—180°E	32—36°N 148—156°E	7										1				1	1
														100				100	

	2	伊豆東方	29—33°N 142—149°E	35					2 11.8	1 5.9				3 17.6	10 58.8	1 5.9		17 100	17
	8	西部太平洋	203—3°N 137—160°E	125			1 0.3	11 3.4	44 13.5	43 13.2	18 5.5	21 6.5	32 9.8	82 25.2	57 17.5	14 4.3	2 0.6	325 100	341
	″	″	″	″		80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	″	″
	3	0—20°N 140°W以東	5—10°N 146—130°W	99	″				1 0.1	5 0.3	79 5.0	359 22.6	443 27.9	437 27.6	208 13.1	41 2.6	13 0.8	1586 100	6080
め	7	30—40°N 180—140°W	28—34°N 175°E-164°W	148		10 0.5	8 0.4	256 13.7	474 25.3	197 10.5	328 17.5	129 6.9	176 9.4	143 7.6	114 6.1	33 1.8	6 0.3	1874 100	4408
	4	ミッドウェー	25—34°N 176E—164°W	96		2 0.4	9 1.8	66 12.9	139 27.1	47 9.2	77 15.0	26 5.1	54 10.5	51 9.9	32 6.2	8 1.6	2 0.4	513 100	3061
	1	ハワイ南西 5°N以北	4—11°N 175—171°W	14				2 1.6	10 8.2	15 12.3	14 11.5	7 5.7	22 18.0	24 19.7	17 13.9	10 8.2	1 0.8	122 100	322
	2	南洋北部 170°E以西	15—22°N 130—135°E	28		12 9.4	2 1.6	20 15.7	7 5.5	11 8.7	37 29.1	17 13.4	12 9.4	8 6.3	1 0.8			127 100	156
	3	南洋南部 170°E以西	0—9°N 123—164°E	47				20 7.6	25 9.5	33 12.6	38 14.5	52 19.8	52 19.8	30 11.5	9 3.4	3 1.1		262 100	719
ば	1	南洋南部 170°E以東	1—8°N 167E-179°W	24				2 5.6	9 25.0	2 5.6	2 5.6	6 16.7	8 22.2	6 16.7	1 2.8			36 100	133
	8	ソロモン	0—16°S 142—157°E	163		30 13.3	2 0.9	30 13.3	34 15.0	15 6.6	37 16.4	31 13.7	33 14.6	9 4.0	2 0.9	3 1.3		226 100	418
	6	ニューカレドニヤ	16—29°S 145—172°E	171				3 2.0	12 8.0	12 8.0	31 20.7	25 16.7	20 13.3	17 11.3	23 15.3	6 4.0	1 0.7	150 100	484
	1	南支那海	14—15°N 114—115°E	13		4 10.5	8 21.1	8 21.1	6 15.8	10 26.3	2 5.3							38 100	239
	1	バンダ フロレス	5—8°S 126—131°E	23					1 0.6	15 8.5	33 18.7	41 23.3	36 20.5	39 22.2	9 5.1	2 1.1		176 100	308
ち	3	小スンダ チモール	9 15°S 116—120°E	49				6 2.5	40 16.9	33 13.9	77 32.5	41 17.3	34 14.3	5 2.1	1 0.4			237 100	612
	1	ジャワ	8—11°S 102—113°E	34		5 1.1		11 2.4	23 5.1	46 10.2	79 17.6	99 22.0	107 23.8	64 14.2	15 3.3	1 0.2		450 100	803
	1	濠洲西方	8—10°S 101—104°E	21		19 3.1	1 0.2	27 4.4	19 3.1	74 12.1	103 16.9	127 20.9	137 22.4	82 13.4	19 3.1	3 0.5		611 100	1086

(別表 2)

魚種	測定隻数	漁場	操業区域	操業回数		80 cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm以上	計	漁獲尾数
メバチ	1	35—40°N 150—180°E	34—36°N 162—167°E	19				7 7.6	10 10.9	21 22.8	10 10.9	15 16.3	19 20.7	7 7.6		3 3.3		92 100	95
	9	30—35°N 150—180°E	29—36°N 148—180°E	167		26 4.5	7 1.2	150 26.0	81 14.0	94 16.3	66 11.4	41 7.1	56 9.7	35 6.1	19 3.3	2 0.3		577 100	1466
	3	伊豆東方	29—35°N 142—149°E	50		2 4.1	1 2.0	17 34.7	11 22.4	9 18.4	4 8.2	2 4.1	2 4.1		1 2.0			49 100	54
	9	西部太平洋	20—33°N 137—160°E	145		73 16.2	8 1.8	141 31.2	47 10.4	54 11.9	37 8.2	30 6.6	36 8.0	22 4.9	3 0.7	1 0.2		452 100	582
	〃	〃	〃	〃		40 cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm以上			〃	〃
びんなが	6	30—40°N 180—140°W	28—34°N 175 E-167°W	122	尾数 %		1 0.2	21 4.3	11 2.2	18 3.7	193 39.2	120 24.4	98 19.9	30 6.1				492 100	1887
	3	ミッドウエー	25—34°N 176 E-164°W	64					1 0.6		18 11.3	78 48.8	52 32.5	11 6.9				160 100	200
	1	南洋北部 170°E以西	19—21°N 130—132°E	14								33 25.0	84 63.6	15 11.4				132 100	135
	1	南洋南部 170°E以東	1—8°N 167 E-179°W	24								3 60.0	1 20.0	1 20.0				5 100	6
	4	ソロモン	10—16°S 142—157°E	80							52 37.4	78 56.1	8 5.8	1 0.7				139 100	484
	4	ニューカレドニヤ	16—29°S 145—172°E	77						8 4.1	100 51.5	75 38.7	11 5.7					194 100	648
	2	小スンダチモール	12—15°S 118—120°E	30							3 3.9	54 70.1	19 24.7	1 1.3				77 100	232
	1	ジャワ	8—11°S 102—113°E	34							2 1.2	146 84.9	24 14.0					172 100	258
	1	濠洲西方	8—10°S 101—104°E	21							1 0.4	193 76.3	56 22.1	3 1.2				253 100	645
	3	35—40°N 150—180°E	34—38°N 161—168°E	43				26 7.8	148 44.2	94 28.1	60 17.9	4 1.2	3 0.9					335 100	2354

が	6	30—35° N 150—180° E	29—36° N 149—180° E	122				1 0.2	31 5.3	56 9.6	313 53.1	95 16.2	62 10.6	28 4.8				586 100	5507
	4	伊豆東方	29—35° N 140—149° E	68					6 1.9	34 11.0	142 45.8	22 7.1	48 15.5	58 18.7				310 100	1046
	9	西部太平洋	20—33° N 137—160° E	145						3 0.6	94 20.2	96 20.6	150 32.3	121 26.0	1 0.2			465 100	2029
い	〃	〃	〃	〃		100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—以上	〃	〃
んど	3	小スンダ チモール	9—15° S 116—120° E	49	〃						23 13.8	112 67.1	30 18.0	2 1.2				167 100	590
まぐ	1	ジャワ	8—11° S 102—113° E	34							8 9.8	53 64.6	18 22.0	1 1.2	2 2.4			82 100	194
ろ	1	濠洲西方	8—10° S 101—104° E	21								2 100						2 100	2
	〃	〃	〃	〃		140 cm 以下	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—260	261 cm 以上	〃	〃
く	3	0—20° N 140° W以東	5—10° N 146—130° W	99	〃	1 0.6	6 3.8	11 7.1	16 10.3	15 9.6	18 11.5	13 8.3	14 9.0	16 10.3	15 9.6	25 16.0	6 3.8	156 100	396
	2	30—40° N 180—140° W	28—32° N 175 E-167° W	43		3 24.9			2 16.7	1 8.3		1 8.3	2 16.7	1 8.3	2 16.7			12 100	12
	5	ミッド ウエー	25—32° N 176 E-164° W	112			2 3.7	5 9.3	5 9.3	4 7.4	3 5.6	3 5.6	7 13.0	11 20.4	5 9.3	7 13.0	2 3.7	54 100	64
	2	南洋北部 170° E以西	15—22° N 130—135° E	28		1 7.1	3 21.4	6 42.9	2 14.3	1 7.1		1 7.1						14 100	15
ろ	3	南洋南部 170° E以西	0—9° N 133—164° E	47		31 16.4	31 16.4	54 28.6	38 20.1	8 4.2	5 2.6	7 3.7	6 3.2	5 2.6	1 0.5	2 1.1	1 0.5	189 100	305
	1	南洋南部 170° E以東	1—8° N 167° E-179° W	24		14 36.8	3 7.9	10 26.3	4 10.5	1 2.6		3 7.9	1 2.6	1 2.6			1 2.6	38 100	134
	8	ソロモン	0—16° E S 142—157°	163		97 20.6	41 8.7	82 17.4	79 16.8	59 12.5	31 6.6	24 5.1	21 4.5	20 4.2	7 1.5	9 1.9	1 0.2	471 100	916
	6	ニュー カレドニヤ	16—29° E S 145—172°	117					1 0.3	2 0.6	10 2.8	64 17.9	127 35.5	104 29.1	44 12.3	3 0.8	3 0.8	358 100	1671
か	1	バンダ フロレス	5—8° S 126—131° E	23				2 8.7	5 21.7	7 30.4	3 13.0	2 8.7	1 4.3	1 4.3		1 4.3	1 4.3	23 100	42

(別 表 2)

漁種	測定船数	漁場	操業海域	操業回数		140 cm 以下	141—150	151—160	121—130	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—260	260 cm 以上	計	漁獲尾数
	3	小スンダチモール	9—15°S 116—120°E	49	尾数 %	1 0.9		9 7.8	27 23.3	38 32.8	24 20.7	7 6.0		4 3.4	3 2.6	3 2.6		116 100	415
	1	ジャワ	8—11°S 102—113°E	34													1 100	1 100	265
	1	濠洲西方	8—10°S 101—104°E	21		2 0.8	3 1.2	9 3.5	37 14.6	71 28.0	78 30.7	12 4.7	8 3.1	14 5.5	5 2.0	15 5.9		254 100	254
わ	2	30—35°E 150—180°E	29—36°E 153—171°E	39											1 25.8	2 50.0	1 25.5	4 100	4
	2	伊豆東方	29—33°N 142—149°E	35				1 16.6				2 33.3			3 50.0			6 100	6
	6	西部太平洋	20—33°S 137—160°E	97		3 18.8	1 6.3	1 6.3	1 6.3	3 18.8		2 12.5			3 18.8	2 12.5		16 100	16
	1	0—20°N 140°W以東	6—10°N 146—132°W	40				1 16.7		1 16.7	1 16.7			1 16.7	1 16.7		1 16.7	6 100	6
し	1	ミッドウェー	27—34°N 176°E-164°W	19										1 100				1 100	1
	1	南洋南部 170°E以西	6—9°N 159—164°E	19			2 66.7								1 33.3			3 100	3
ろ	1	南洋南部 170°E以東	1—8°N 167°E-179°W	24			1 100											1 100	4
	8	ソロモン	0—16°S 142—157°E	163		2 0.5	11 2.7	29 7.2	57 14.1	47 11.7	46 11.4	69 17.1	70 17.4	34 8.4	21 5.2	11 2.7	6 1.5	403 100	1375
か	6	ニューカレドニヤ	16—29°S 145—172°E	117		1 0.2	5 1.2	15 3.6	49 11.7	47 11.2	59 14.1	74 17.9	57 13.6	44 10.5	27 6.4	22 5.3	19 4.5	419 100	1512
	1	バンダフロレス	5—8°S 126—131°E	23				4 12.5	11 34.4	4 12.5	2 6.3	7 21.9	2 6.3	1 3.1	1 3.1			32 100	59
わ	2	小スンダチモール	12—15°S 118—120°E	30		3 6.1	4 8.2	8 16.3	9 18.4	1 2.0	6 12.2	5 10.2	4 8.2	2 4.1	4 8.2	3 6.1		49 100	124
	1	濠洲西方	8—10°S 101—104°E	21		2 2.4	5 6.0	6 7.2	4 4.8	6 7.2	6 7.2	14 16.9	15 18.1	8 9.6	7 8.4	9 10.8	1 1.2	83 100	83

	″	″	″	″	″	130 cm 以下	131 — 140	141 — 150	151 — 160	161 — 170	171 — 180	181 — 190	191 — 200	201 — 210	211 — 220	221 — 230	231 cm 以上	″	″
ま	3	0—20°N 140°W以東	5—10°N 146—130°W	91	″			4 4.3	43 46.2	32 34.4	6 6.5	8 8.6						93 100	171
	2	30—40°N 180—140°W	28—34°N 175°E-167°W	43		2 1.2		1 0.6		2 1.2	2 1.2	14 8.7	54 33.5	56 34.8	18 11.2	9 5.6	3 1.9	161 100	178
	3	ミッドウェー	25—32°N 179—164°W	67		2 4.0		3 6.1	13 26.5	13 26.5	4 8.2	6 12.2	5 10.2	2 4.1	1 2.0			49 100	49
	2	南洋北部 170°E以西	19—22°N 130—135°E	28		16 47.1	1 2.9	5 14.7	8 23.5	4 11.8								34 100	34
か	1	南洋南部 170°E以西	5—8°N 133°E-141°E	13						1 100								1 100	1
	1	南洋南部 170°E以東	1—8°N 167°E-179°W	24				1 100										1 100	3
	6	ソロモン	0—16°S 142—157°E	131						1 6.7	6 40.0	1 6.7	4 26.7	1 6.7	1 6.7	1 6.7		15 100	20
	6	ニューカレドニヤ	16—29°S 145—172°E	117					1 0.3	2 0.6	10 2.8	64 17.9	127 35.5	104 29.1	44 12.3	3 0.8	3 0.8	358 100	1671
じ	2	小スンダチモール	9—15°S 116—120°E	36				5 15.6	7 21.9	8 25.0	9 28.1	2 6.3	1 3.1					32 100	52
	1	ジャワ	8—11°S 102—113°E	34		1 3.1	1 3.1	1 3.1	3 9.4	7 21.9	12 37.5	7 21.9						32 100	44
	1	濠洲西方	8—10°S 101—104°E	21				1 5.0	2 10.0	3 15.0	6 30.0	5 25.0	3 15.0					20 100	34
	1	35—40°N 150—180°E	34—36°N 162—167°E	19					3 12.5	14 58.3	4 16.7	3 12.5						24 100	24
き	6	30—35°N 150—180°E	29—36°N 149—180°E	118				2 1.8	28 24.8	40 35.4	34 30.1	7 6.2	2 1.8					113 100	133
	3	伊豆東方	29—35°N 142—149°E	50				4 11.1	10 27.8	19 52.8	1 2.8	2 5.6						36 100	41
	8	西部太平洋	20—33°N 137—160°E	130		50 26.7	3 1.6	30 16.0	56 29.9	40 21.4	6 3.2	1 0.5	1 0.5					187 100	189

(別 表 2)

漁種	測定隻数	漁場	操業海域	操業隻数		100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上	計	漁獲尾数
めかじき	1	0—20°N 140°W以東	6—10°N 146—132°W	40	〃			1 5.9		1 5.9	1 5.9		4 23.5	4 23.5		2 11.8	4 23.5	17 100	26
	6	30—40°N 180—140°W	28—34°N 175°E-167°W	131		10 4.3	1 0.4	13 5.6	23 9.8	27 11.5	37 15.8	48 20.5	22 9.4	22 9.4	11 4.7	11 4.7	9 3.8	234 100	264
	3	ミッドウェー	25—34°N 176°E-166°W	70			2 8.0	1 4.0	6 24.0	8 32.0	1 4.0	3 12.0		4 16.0				25 100	25
	2	南洋北部 170°E以西	15—22°N 130—135°E	28		1 4.5		1 4.5	4 18.2	2 9.1	3 13.6	4 18.2	4 18.2		1 4.5	1 4.5	1 4.5	22 100	25
	1	ソロモン	10—12°S 154—157°E	15										1 100				1 100	1
	4	ニューカレドニヤ	16—29°S 145—172°E	70				1 12.5		1 12.5			2 25.0	1 12.5	3 37.5			8 100	39
	1	南支那海	14—15°N 114—115°E	13		5 14.3	1 2.9	1 2.9	6 17.1	6 17.1	5 14.3	3 8.6	5 14.3	2 5.7			1 2.9	35 100	35
	2	35—40°N 150—180°E	34—38°N 162—167°E	31		1 0.8	3 2.4	3 2.4	3 2.4	16 12.7	13 10.3	27 21.4	21 16.7	19 15.1	7 5.6	5 4.0	8 6.3	126 100	328
	9	30—35°N 150—180°E	29—36°N 148—180°E	178		4 1.9	4 1.9	9 4.3	27 12.9	19 9.1	22 10.5	33 15.8	30 14.4	25 12.0	13 6.2	12 5.7	11 5.3	209 100	271
	1	東北海区	34—36°N 145—147°E	12		2 6.3	1 3.1	3 9.4	4 12.5	6 18.8	7 21.9	6 18.8	2 6.3		1 3.1			32 100	91
	5	伊豆東方	29—35°N 142—149°E	65		16 7.9	10 5.0	24 11.9	31 15.3	31 15.3	30 14.9	25 12.4	16 7.9	5 2.5	7 3.5	3 1.5	4 2.0	202 100	334
	9	西部太平洋	20—33°N 137—160°E	145		33 21.8	22 15.8	12 8.6	20 14.4	15 10.8	15 10.8	10 7.2	5 3.6	2 1.4	2 1.4	1 0.7	2 1.4	139 100	144

鮪類標識放流について

(1) 昭和30年5月7日より6月16日までの間に放流実施の委託をなした船数は3隻（標識49本）である。

(2) 昭和30年5月7日より6月16日までの間に放流実施の報告のあつた船数は5隻放流尾数12尾である。

放流実施船名及び放流実施の概要

船名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾数）
宮城丸	A0464	29.12.18	13°11′S 119°42′E	めばち（1）
12金比羅丸	A0552	30. 5.10	6°—10°N 79°—30′E	きはだ（1）
3 栄丸	A0561	30. 3.2	1°02′S 156°48′E	きはだ（1）
12海王丸	A0881 —885	30. 2. 20,21	2°—3°S 70°—36′E	きはだ（4）かつお（1）
富山丸	A0911 —914	30 4.27,28 5.6,7	2°—3°N 178°-180°E	きはだ(2) くろがわ(1) めかじき(1)

（参考） 昭和29年2月より本年6月までに放流実施の報告のあつた船数は総計66隻、放流尾数は258尾である。

会費(第二年目分)払込送金のお願い

会誌鮪漁業も本号を以て第20号を御届致すことになりますが会誌第1号乃至第10号より配付を受けた会員で第二年目（自昭和29年9月～30年6月至昭和30年8月～31年5月）の年間会費を未納の方は1,200円也（郵送料200円を含む．三崎町内は郵送料不要）を大変恐れ入りますが本会宛払込送金をお願い申し上げます。

アメリカ領サモア島の概観―鮪を中心問題として

訳文　西　　武　男

(Pan american fisherman 1955年3月号より)

南太平洋に於ける鮪漁業を最初に組織だてたといわれるハロルド・ガツテイ氏はオーストラリヤの雑誌ザ・サウス・シー・アイランヅに最近の鮪漁業について興味ある評論を掲げている。

アメリカ領サモアのパゴ・パゴで日本人漁夫を雇つて日本人漁業の特技によつて鮪の缶詰工場を経営している合衆国の或る商社はパゴパゴ・缶詰工場用として多量の鮪を漁獲入手しガツテイ氏の満足するところとなつている。即ち、彼の理論と予想（南太平洋には多量の食用魚類があるということ）とが実証されたからである。

「太平洋の鮪というものは将来の世界の食糧に最も重要なものの一つとなる可能性がある」と彼はいつている。そして又「各種類の鮪のうちでも一番重要なのはビン長である。世界のどこの水域でも――特に太平洋に於ては――水温が華氏の64度乃至66度の海水の温度であれば、水面から垂直に200尋、いやそれ以上の深さにビン長鮪が厚く存在する。諸君はそれ等の鮪を広範囲に亘つて漁獲することが出来る――たとえばニュウジーランドやチヤサムスからケルマデツクを通つて真直ぐに赤道に至る範囲の如く。

昨年8月、日本人漁業者は南16度、東129度（丁度ソロモン群島の東）でビン長を2,200屯も獲つている。どうして漁獲することが出来るかその方法を知りさえすれば、どんな人でも採捕出来るこのすぐれた食糧の莫大な数量に誰も気付かずにいる。

右水面に於ける日本人の漁業実績は大体餌付（エサ）の魚鉤（ツリバリ）100本に対して4.5尾平均の漁獲率である。彼等は水域を選び、早朝出漁して、約20哩にも及ぶ延縄を、魚鉤1,000本以上を使つて仕掛け、午後縄を揚げはじめる。

米国人はクリスマス島附近で魚鉤100本に対し12尾も漁獲出来る海域を発見している。このことは実に海の偉い収獲である。

次に大切な事は基礎をなす経済問題である。日本人は小さな漁船に各35名程乗組んでいる。日本人漁業者の重労働とされるところは手仕事によることで20哩にも及ぶ縄を機械力の殆んど助けによらずして海中に仕掛けたり又、揚げたりする。また、其処には非常に限られた船室しかなく――充分な棚寝床もなく――更らに一定の給金もないのである。彼等は結果次第で支払われる。この前の漁期の平均給料は1カ月9$位であつた。話はかわつてアメリカ領であるパゴ・パゴで缶詰にされる全魚類は地方税は無税であり、又アメリカ人の製造物という所から缶詰は合衆国へ関税の違法なしで、そのまま入れる。吾々がフイジイでかかる仕事をしようとした時にはかかる便宜がなかつたとガツテイ氏は述べている。

ガツテイ氏は鮪漁業が今後栄えるには機械化する必要があると考えている。ハワイ附近で操業している2隻のアメリカ人の鮪漁業を行う漁船は僅かに漁夫6人で足りている――この小さい漁船は仕事を全部機械力によつているが、一方日本の漁船なら漁夫35人を乗せているという次第である。

ガツテイ氏は更に以下のことを信じている。日本人が魚類としての食糧の偉大な財宝を最初発見した手柄は認めるであろう。それから第2次世界戦争前には日本人漁業者は700万人であつた。それが今日小さい国に押し合つた国民はどこかにはけ口を見出し又、海洋上に活路を得んとしているのであるということを。

附錄

『サモア知事の鮪企事に対する見解』

（前者と同誌記事）

アメリカ領であるパゴ・パゴにある鮪工業は、未だ試験時代とはいえ、すべての点から将来必ず成功するものであると知事ローウ氏は述べている。サモアの近海には魚類がいつの季節でも1年中どこかに多量いることが明確になつた。そして日本人がこれを漁獲し得ることも証明された。然し彼等日本人は周年を通じて漁獲出来るかどうかについては未だ不安に思つている。

サモアにある缶詰製造所は鮪の供給が不規則である間は一定の生産量も確保し得なかつた――漁獲物を満積して漁船が帰港するまでに数日経過することがよくあつた。その上冷凍容積は缶詰製造所にはそれ以上の設備が非常に必要であつた。がこの方は近く何んとかなる筈である。

ローウ氏は更らに昨年（1954年）には約2カ月程操業休止の状態にあつたと述べている。彼等日本人と缶

詰会社との契約が昨年9月に満了して日本人漁業者は帰国した。

缶詰工場が操業して以来約1,000屯の鮪が処理された。その上更に500屯の冷凍鮪が合衆国本国へ昨年3月に船積みされた。

缶詰製造所は未だ長期の租借契約を合衆国政府と結んではいないとローウ氏へいつている。彼等の現在の契約は、1955年末で切れることになる。然しその時には更らに長期の契約が結ばれるものと思う。現在の契約の条件では会社はサモアの土着漁民に対し延縄に関する技術を教える義務があることとなつている。その技術とは南太平洋海域に於て最も企業的に成功した方法をである。

（水産庁漁政課　技官）

米国魚類鳥獣課海洋漁業支所 航海報告

フイシエリイ プロダクト レポート P—94 1955.5.13. より

（神奈川水試漁撈部訳）

航　海…マグロクリツパー、オーシヤンプライド号 C—2—55

1955.2.15　カルホルニヤ、サンチヤゴ　出港

〃　4.19　〃　帰港

区　域…コスタリカ、コーカス島及ガラパゴス諸島沖海面

目　的…A．小キハダ、カツオ、メバチの標識放流

B．既定海洋観測（気象、水温及び一般海況）の実施

C．マグロの稚魚の標本蒐集

D．その他生物学的観察及蒐集の実施

結　果…計1,088尾のキハダ、カツオ、メバチを本航海に標識放流した。全魚は〃G〃型プラスチツク製チユーブの標識で放流した。標識した魚の種類及び海域は下記の通りである。

	キハダ	カツオ	メバチ	計
ガラパゴス諸島	210	694	26	930
コーカス島	23	81	12	116
コスタリカ	18	22	2	42
計	251	797	40	1088

表面水温の測定は、航海中全て行つた。最高水温は、コスタリカのブランコ岬南西40浬で80° Fであつた。最低水温はメキシコ沖、コロナド諸島で57° Fである。ガラパゴス諸島でとつた魚は、表面水温77° Fから80° Fの間で、コーカス島及コスタリカ沖では表面水温はより高く84° Fから85° Fであつた。

オーシヤン、プライド号の船上で標識をつけた一尾の魚は5日間海にいた後に再び同船乗組員につかまつた。これは放流した同一の場所であつた。

蒐集した色々の餌料の標本や参考品は現在鑑定中で学校や関係機関を喜ばすこととなろう。

図書誌の分譲其他について

◎本会発行の図書誌を実費分譲しますから御申込下さい。漁場天気図は本会にて研究の上編集制定したものでありますから同方面の漁場へ出漁する漁船は是非御利用下さい。

漁場天気図（東部印度洋、25°N—25°S　西部太平洋 80°E—150°E）昭和29年8月版
1部 250円（B3判50枚綴）　郵送料 48円

会誌【鮪漁業】第6—20号　各100円　郵送料 16円

鮪類水揚地調査報告（其の一）自昭和27年5月 至昭和28年4月
1部 300円（B5判150頁）　郵送料 24円

鮪漁船操業図（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）
1枚 50円　郵送料 8円

鮪漁場図（32海区劃に表示したもの）
10枚 50円　郵送料 8円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願いします。

◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費1000円（他に会誌送料200円）を添えて研究会宛御申込下さい。

◎本誌に広告掲載希望の方は、本会伊藤主事迄御申込下さい。

強くて・腐らぬ・クレモナ延縄

倉敷レイヨン指定延縄工場　玄番工業株式会社

大阪市八尾市字竹渕501番地　電話東住吉 1407・773・49

鮪漁業
1955年5月号

昭和30年5月印刷
昭和30年5月発行
監　集　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　菅野　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発行所　鮪漁業研究会

鋼木船造修一般

四百屯船台二基

五百屯船台一基

三崎船舶工業株式会社

神奈川県三浦市三崎港（電話 三浦 343 番）

日魯漁業株式會社

本　社　東京都千代田区丸ノ内2ノ2丸ビル4階

電話 和田倉 (20) 1851 (代表)

大洋漁業株式會社

本　社　東京都千代田區丸ノ内1ノ4新丸ビル6階

電話 千代田 (27) 代表 1041, 1241

神奈川縣鰹鮪漁業協同組合販賣所

組合長　寺　本　正　市

神奈川県三浦市三崎港

（電話三浦八六〇～八六四番）

すべての実績が示す無線通信機の王座

JRC漁業用無線装置

▶営業品目◀

漁業用送信機（25Wより250Wまで各種）
漁業用受信機（全波，短波，長中波各種）
小型レーダー　ロラン受信機　方向探知機
魚群探知機　超短波無線装置
放射能測定装置　送受信用眞空管

出張所

札幌出張所　札幌市北一條西4―2　札商ビル
電話・(2)局　6161―6165
横濱出張所　横浜市神奈川區松本町47
電話・神奈川0872
神戸出張所　神戸市生田區海岸通り5商船ビル
電話・元町1026
福岡出張所　福岡市東中州1―41―1
電話・西(2)4754
長崎出張所　長崎市元船町1―3
電話・長崎0361

JRC　代理店

網走無線電機	網走市	日本無線工業	小樽市
武市商会	函館市	東京商会	八戸市
高橋商会	氣仙沼市	大野電氣商会	石卷市
常磐無線電氣	磐城市	萩田電氣	塩釜市
那珂湊代理店	那珂湊市	橋口無線	銚子市
房總代理店	千葉県	東海電氣	伊東市
小林電氣	清水市	遠州産業	愛知県
やまだい	八幡浜市	丸吉電業	宇和島市
関西電業社	下関市	三崎日本無線	三浦市

本社・工場　東京都三鷹市上連雀930　電話 武藏野 3611―3619
東京営業所　東京都澁谷区千駄ケ谷4―693　電話 淀橋 (37) 0111(5), 0431, 0432

日本無線

水産無線部　東京都澁谷區千駄ケ谷5―998　電話 淀橋 (37) 3454
大阪支社　大阪市北區堂島中1―22　電話 福島 (45) 0665, 0666

営業品目　漁網・延縄・漁具・製造販賣　船具・機械電氣用品販賣　石油元賣

日本漁網船具株式会社

本社　東京丸ビル六階　電話和田倉(20)代表 1841
営業所　下関、函館、大阪、戸畑、長崎　工場　下関
出張所　名古屋、仙台、釧路、小樽　油槽所　川崎、女川、下関

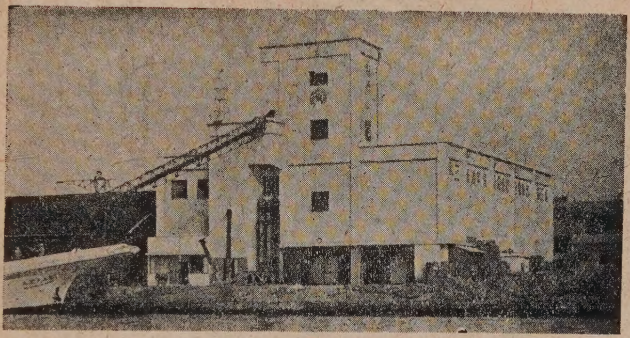
漁船の氷，餌料の仕込は

三崎漁連へ 砕氷設備毎時50屯2基完備

（向ヶ崎・花暮岸壁）

凍結能力日産一七屯

冷蔵收容量 六〇〇屯



製氷能力日産五〇瓩

貯氷能力 五五〇瓩

三崎漁業協同組合連合会（製氷冷凍工場）

会長　寺本正市

（神奈川県三浦郡三崎港 TEL三崎609・655番）

綿
クレモナ

鮪延繩
綿撚糸
製造販売

倉敷レイヨン株式会社　クレモナ延繩指定工場

山田撚糸株式会社

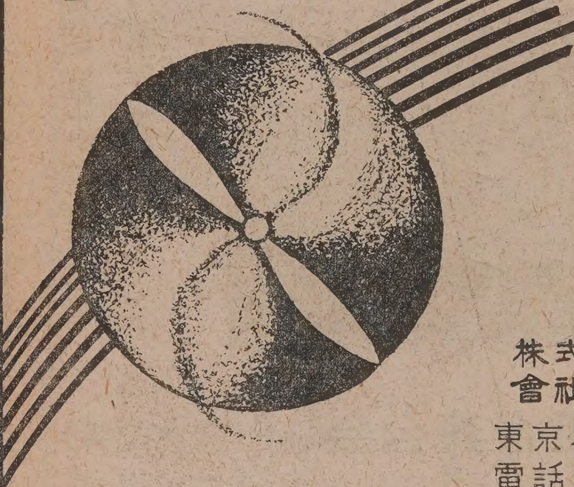
本社工場　八尾市大字亀井　電話（東住吉）559•2113

東京營業所　東京都品川區西戸越二ノ六七二　電話（荏原）6553

光電の方探

全方向自動直視式

7つの特許が生んだ
世界的製品



株式會社 光電製作所

東京都上大崎長者丸284の1
電話大崎(49)3265.5335.7438.7981

營業種目

船舶・陸上

冷凍・冷藏・製氷・冷房

冷凍・冷藏・製氷工場 急速・空氣凍結製置 冷房製置・冷凍機械器具 防熱裝置・船舶冷凍冷藏	設計 製作 施工

協同低温工業株式会社

本社 東京都千代田區神田佐久間町河岸 58 号（夏目ビル二階）
電話下谷（83）0996番

大型漁船の御用命を待つ！

下田船渠株式會社設備概要

乾　船　渠　500 屯 — 1 基
引 揚 船 架　500 屯 — 1 基
（最新算盤式完成）
同　　　上　300 屯 — 3 基
其の他鋼木造船造修設備一式

下田船渠株式会社で修理中の大洋漁業所属まぐろ船第七東丸（310噸）

下田船渠株式会社

取締役社長　沢村久右衛門
常務取締役　沢村正三
静岡県下田港　電話伊豆下田 9・10・53
東京事務所　港區芝田村町4の13　電話芝(43) 2539

神奈川県漁船保険組合

組合長　矢板開一

神奈川県庁水産課内

（電話本局 (2) 2331～9）

▷ 最高の技術――永い信用 ◁

営業種目

VHF新聞通信社用
ビーコン装置
超短波通信機
極超短波通信機
高級無線用測定器
放送施設一式
船舶用無線機
ラジオヒーター
高級無線通信機

國際電氣株式會社

取締役社長　町用辰次郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150
電話　砧（41）（代）7171―9番
電話　武蔵調布　472番
東京営業所　東京都港区芝西久保桜川町9
電話　芝（43）代表　7373―9番
大阪出張所　大阪市北区中之島2の25（江商ビル508号室）
電話　北浜（23）　4553番
福岡出張所　福岡市天神町55（伊藤ビル）電話中（4）2589

Hattori

無線通信装置

鮪漁船には充實せる無線機を！

株式会社　**服部電機製作所**

本社　東京都港区麻布竹谷町2番地

電話（45）2693・4993・9225～6